週刊 YEAR BOOK

1905 明治38年

日録20世紀

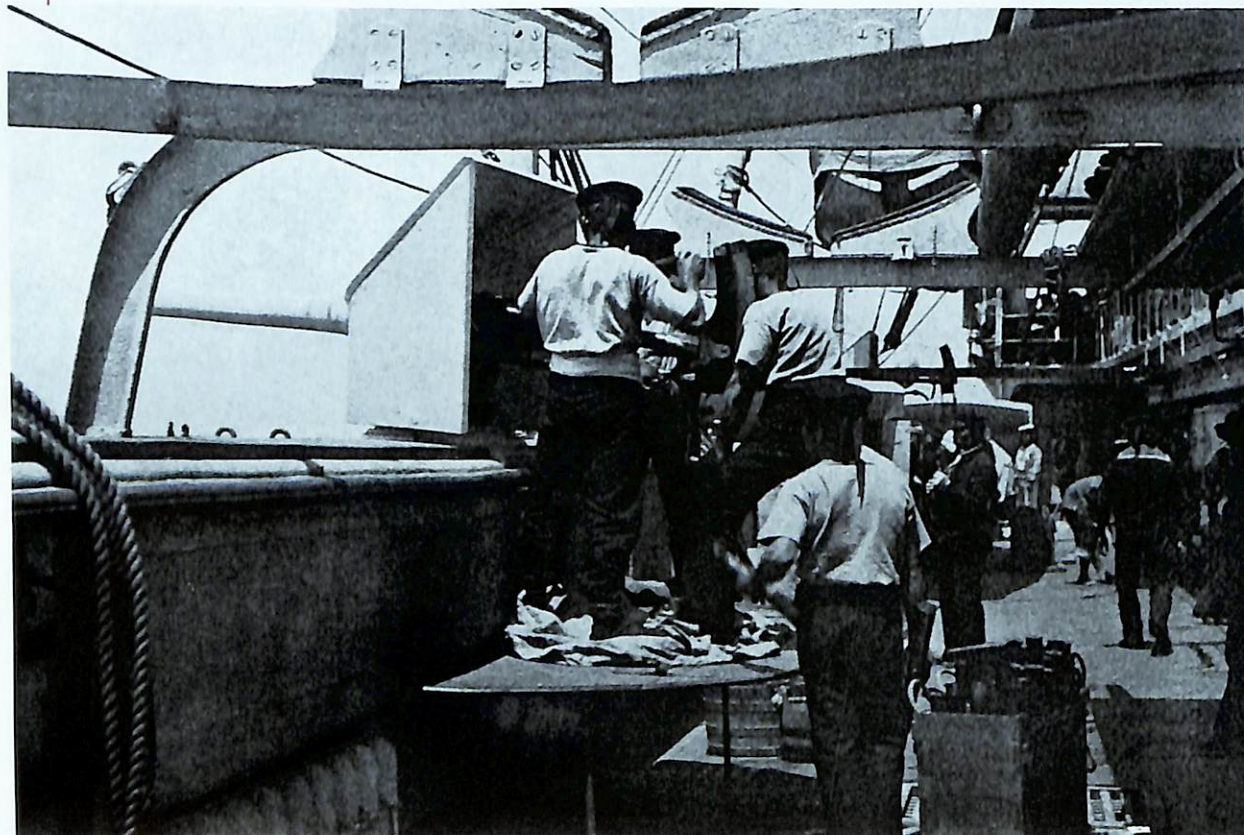
11|10
平成10年11月10日発行
（毎週1回火曜日発行）
第2巻第42号 通巻85号
平成10年7月31日第三種郵便物認可
¥560
講談社

日本海海戦！

ポーツマス講和と日比谷焼き打ち事件！
反響騒然！ 夏目漱石「吾輩は猫である」発表
水兵が蜂起、戦艦「ポチョムキン」の叛乱！

「本日天気晴朗なれども浪高し」
バルチック艦隊38隻中、沈没19隻、捕獲5隻
——戦闘開始後30分で大勢は決した！

日本海海戦と「トーゴー・ターン」

▲連合艦隊は、「笠置」「千歳」などの偵察隊を南方へ派遣。バルチック艦隊の進路をさぐり、主力は根拠地・鎮海湾に集結して満を持した。

▲速射砲発射訓練。「財政上より大概の処にて和議をなすの外なし」という状態では、海戦の勝利が講和に持ちこむための絶対条件だった。

日露戦争中、最大にして最後の海戦となった日本海海戦。はるばる三万キロを旅してきたバルチック艦隊は、東郷司令長官率いる連合艦隊によって完膚なきまでに殲滅され、講和への大きなきっかけとなった。また、この海戦で東郷が行った敵前大回頭は、「丁字戦法」や「トーゴー・ターン」として世界に広く知れわたることにもなったのである。

損害は三隻の水雷艇のみ 連合艦隊の圧倒的勝利！

「敵艦見ゆとの警報に接し、連合艦隊は直ちに出動、之を撃滅せんとす。本日天気晴朗なれども浪高し」

明治三八年五月二七日午前五時五分、哨戒艦「信濃丸」から「敵艦見ゆ」の報を受けた連合艦隊司令長官・東郷平八郎（五七）は大本営に向けこう打電すると、朝鮮半島南部の鎮海湾を出港した。東郷が率いるのは、旗艦である戦艦「三笠」（一万五一四〇トン）を先頭にした戦艦四隻、巡洋艦八隻などからなる一四隻。対するバルチック艦隊は戦艦八隻、巡洋艦一〇隻など合計三八隻である。

同日午後一時三九分、対馬海峡東水道で連合艦隊は前方を航行中の敵艦隊を視

日本海海戦図

「日露戦争」（学習研究社）を参考に作成

バルチック艦隊の航路

「日露戦役海軍写真帖」（三点とも）

▲連合艦隊司令部メンバー。前列中央が司令長官・東郷平八郎大将、一人おいて右が日本海海戦の作戦を立案した先任参謀・秋山真之中佐、左は参謀長・加藤友三郎少将。

◀バルチック艦隊司令長官・ロジェストウェンスキー中将。戦闘で負傷し捕虜となる。
文殊社提供

◎表紙　東郷平八郎大将率いる連合艦隊は、バルチック艦隊との決戦に備えて、日夜猛訓練を重ね、対馬海峡で史上稀な大戦果をあげる。「日露戦役海軍写真帖」

▲連合艦隊の旗艦「三笠」。5月27日午後1時55分、マストにZ旗がひるがえり、戦いの火蓋が切られた。 『日露戦役海軍写真帖』

認。そしてその一六分後、旗艦「三笠」のメインマストにZ旗がひるがえった。

「皇国の興廃此の一戦にあり。各員一層奮励努力せよ」

波飛沫舞う艦橋では、東郷司令長官が微動だにせず前方敵艦隊をにらむ。そして両艦隊の距離は急速に縮まっていき、ついに八〇〇〇メートルを切った時、砲術長・安保清種少佐（三四）が叫んだ。

「どちらの舷側で戦闘をなさるんですか！」

その刹那、東郷は無言のまま右手を高く掲げるや、左方に大きく半円を描いた。

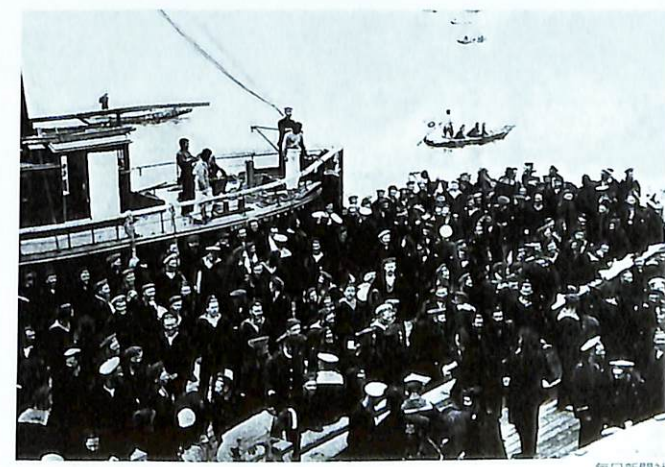
「艦長！　取り舵いっぱい！」

加藤友三郎参謀長（四四）の命令が響く。時に午後二時五分、連合艦隊は「三笠」を先頭に、左へ急回頭を始めた。後に「T字戦法」と呼ばれた戦史に名高い「敵前大回頭」である。回頭を終えて敵艦隊と並走し始めた連合艦隊各隊は、敵旗艦の戦艦「スワロフ」（一万三五一六トン）などに砲弾を次々と命中させていく。約三〇分後には、ロシア艦隊のほとんどの艦船が火災を発生、陣形もバラバラに崩れていた。「三笠」の参謀であった秋山真之中佐（三七）は後に、「わが帝国の運命は、この最初の三〇分間で決まった」と述懐している。

この後は「落ち武者狩り」とも呼ぶべき追撃戦が行われ、他海域から駆けつけた駆逐艦による夜間魚雷攻撃、戦艦の砲撃を受けたバルチック艦隊は完全に壊滅した。三八隻の艦艇のうち、撃沈一九隻、捕獲五隻。残りの艦船も、中立国に逃げこんだ後、武装解除された。これに対して連合艦隊の損害は、わずか三隻の水雷艇を失ったのみ。日本の圧勝は国内外に大々的に報じられ、最大の勝因は「T字戦法」にありと賞賛された。

T字戦法は幻だった？日本海海戦の真の勝因

日露戦争において、制海権の掌握は日本の死活問題だった。朝鮮半島や満州（中国東北部）の戦場に、兵士や武器・弾薬を海上輸送する必要があったからである。

両国の海上戦力は、日本が戦艦六隻、巡洋艦一六隻など合計七八隻。対してロシアは旅順の極東艦隊こそ戦艦七隻、巡洋艦一四隻など計六八隻と連合艦隊を下回るが、彼らには戦艦八隻、巡洋艦一〇隻など合計三八隻を擁するバルチック艦隊があった。極東・バルチック両艦隊が連合すれば、戦力で劣る日本艦隊に勝ち目はない。そのためにはまず極東艦隊を撃滅し、次いでヨーロッパから回航されるバルチック艦隊を迎え撃ち、各個撃

▲戦艦「アリヨール」は、五月二八日に降伏。捕虜となった乗組員たち。
毎日新聞社

「本日天気晴朗なれども浪高し」
バルチック艦隊38隻中、沈没19隻、捕獲5隻——戦闘開始後30分で大勢は決した！
日本海海戦と「トーゴー・ターン」

破するしか活路はなかったのだ。が、明治三七年八月一〇日の黄海海戦でも極東艦隊を全滅させるにはいたらず、同年一〇月一五日、ついにロジェストウェンスキー中将（五七）率いるバルチック艦隊はバルト海のリバウ軍港を出発した。

だが、大西洋から喜望峰をまわり、マラッカ海峡を経由してウラジオストクにいたる、約三万三〇〇〇キロの航海をしたバルチック艦隊のハンディは大きかった。同艦隊は一〇〇〇海里（一八五二キロ）航行するのに、約一万七〇〇〇トンの石炭を必要としたが、国際法上、中立国の港湾施設を利用することはできない。そのため公海上で輸送船から石炭を補給したが、波の荒い洋上で数日ごとに繰り返される作業は兵士を疲弊させて士気を下げ、戦闘訓練すらままならなかったのだ。

また、連合艦隊も、手をこまねいてバルチック艦隊を待っていたわけではなかった。ヨーロッパに駐在している武官や商社から敵艦隊の情報を収集するとともに、陸軍に旅順要塞の攻略を強く要請。乃木大将（五五）指揮下の第三軍は苦しみながらも攻略に成功し、高台から港内の極東艦隊を砲撃して全滅させた。しかも、連合艦隊はドック入りして損傷箇所を修復するとともに激しい戦闘訓練を積んでおり、準備は万端。この士気と訓練の差は、大きかった。

運命の選択

バルチック艦隊がウラジオストクに向かうルートは、常識的には①対馬海峡、②津軽海峡、③宗谷海峡の3ルートが想定された。同艦隊がウラジオに入り戦力を立て直す前にたたいておきたい連合艦隊にとっては、どのルートに迎撃艦隊を配置するかは重要問題である。ロシア側も十分このことは承知しており、「日本艦隊は1ヵ所で待機するリスクを避け、各海峡に戦力を分散配置する」と予想した。

が、日本側はこの3ルート以外にもうひとつの可能性を危惧していたのである。それは、バルチック艦隊がウラジオに入らず中国南部に基地を建設し、そこを拠点に活動することであった。そのため敵艦隊がどの作戦をとっても即応できる中間点、朝鮮半島南部の鎮海湾に連合艦隊を集結させた。そうとは知らないバルチック艦隊は、長旅の疲れもあり、最短コースである対馬海峡を選択。結果的に日本連合艦隊から最も近い海域に突き進んでいったのである。

▲遠路3万3000キロを旅して、27日朝、対馬海峡に接近するバルチック艦隊。

では「敵前大回頭」による「T字戦法」は日本大勝の決定的勝因となりえたのか。「T字戦法」とは、進行してくる敵艦隊正面を自艦隊が横切ってT字形を維持し、敵先頭艦に砲撃を集中する戦法であるが、防衛大学校の田中宏巳教授は、こう語る。

「たしかに『T字戦法』は黄海海戦で用いられましたが、失敗しています。そこで司令部は、敵艦隊の進路に機雷を敷設し、それを避けようと敵が陣形を乱したところに駆逐艦が魚雷攻撃をする作戦を立てていました。しかし、荒波により機雷敷設が不可能となって作戦は破棄され、それに代わる新作戦のないまま敵と遭遇したのです。そのまま進めばすれ違いざまの戦闘しかできずに敵艦隊を逃してしまうため、敵と並走できるようあわてて舵を左に切った——それが、敵前大回頭の真の意味です。このような不手際がありながらも勝利できたのは、士気も訓練度も高い小型艦が奮闘して、魚雷攻撃で敵艦を沈めたからでした」

この勝利により日露戦争は事実上決着、講和へとつながった。だが軍部は、海戦の勝利は戦艦と「T字戦法」にありとして大艦巨砲の軍備増強を続ける。同時に東郷司令長官も、「勝利の立て役者」として神格化された。昭和に入ると東郷は軍備増強派の拠り所となり、昭和五年のロンドン軍縮条約に強硬に反対するなど日本の軍国化に大きな影響を与えていくのである。

◀砲身が折れた「戦艦アリヨール」。日本海軍が使用した下瀬火薬の威力と砲撃の正確さが勝利を呼んだ。
『日露戦役海軍写真帖』

「樺太島の北半分を返還、賠償金ゼロ」三万人の群衆が警察、内相官邸、新聞社を襲撃
ポーツマス講和と「日比谷焼き打ち」の暴発！

日本の勝利で終わったはずの日露戦争の帰結は、領土の新たな割譲も、賠償金もない講和だった。このポーツマス条約締結に、世論は憤慨。全国で講和反対運動が巻き起こったが、その頂点は、三万人の群衆が二七一ヵ所の警察署、交番を焼き払い、内相官邸や〝御用新聞〟を襲撃した「日比谷焼き打ち事件」だった。

▲9月5日、暴徒と化した群衆は、交番・派出所の7割以上を焼き打ちし、暴動は翌6日も続いた。桂首相は河野広中らに鎮静化を依頼したが、河野らもなす術がなかった。　毎日新聞社

国民大会で警察官と衝突 勢いを得て内相官邸乱入

明治三八年九月五日早朝から、日露戦争の講和条約に反対する人々が、東京・日比谷公園に続々と押し寄せ、昼頃には約三万人に膨れあがっていた。演壇正面左側には、白布を黒枠で囲み、「弔講和問題国民大会」と大書した大会旗が掲げられた。

午後一時、この催しへの参加を呼びかけた講和問題同志連合会の河野広中（五六）が、「日露和約批准の拒絶を奏上し、国家を一大危急より救い出さん」と大会決議を読み上げる。これに群衆が「賛成」「万歳」と一斉にこたえ、会が解散に移ろうとした一時三五分、未曾有の騒乱事件が始まった。

まず、警戒のため公園の内外に配置されていた三五〇人の警察官と大会参加者たちがそこかしこで小競り合いを演じ、激しい投石が始まった。この日、警察官は全員、抜剣を禁じられており、鯉口を麻紐で縛っていたので、棒やステッキを振りまわして迫る人々に押しまくられ逃げ出さざるをえなくなった。勢いを得た群衆は、「やれ、やれッ」とさらに警察官を追いまわす一方、公園の六つの入り口に設けられていたバリケードの木柵をあっという間に踏み破る。

すでに無人になっていた公園幸門派出所を取り囲んだ十数人は、「大馬鹿巡査」「無能警察」と口々に叫びながら、机や椅子、書棚などをたたき壊しているうち、「洋灯壊れてパッと燃え出し、火光天に沖し、一挙に灰燼」（「東京朝日新聞」九月六日）に帰した。この後、市内各所の交番、派出所が次々に襲われ、破壊、放火は夜に入っても続けられたのである。

日比谷公園近くの芳川顕正内相官邸への乱入は午後二時半頃。最初、瓦や小石を投げつけて、制止の警察官四人を負傷させた後、正門を破壊した一団が邸内へ殺到。窓、戸のガラスを片っ端から粉砕した。その騒ぎにまぎれて五、六人の若者が官邸裏門の塀にそった建物に枯れ木を立てかけ、火を放つ。炎はたちまち軒先から室内へ広がり、ほどなく官邸は焼け落ちた。政府の〝御用新聞〟と言われていた京橋の「国民新聞」も襲撃を受け、社屋を焼失する。

日比谷公園の大会主催者は河野、小川平吉（三五）らの野党代議士と右翼壮士、新聞記者、弁護士らだったが、市中に繰り出して暴れまわったのは向こう鉢巻き・法被姿の職人、職工などの労働者と一般市民、野次馬だった。

こうした首都の混乱・無政府状態に、警察力だけでは収拾しえないと見た桂太郎内閣は、六日午前二時、「戒厳令」の施行を決め、近衛師団を出動させて鎮圧にあたらせた。暴動がおさまり、市内の火の手がほとんど消えたのは七日夜だったが、「戒厳令」はそのまま継続され、解除されたのは一一月二九日だった。

この間、東京では交番・派出所の七割以上が焼かれ、民家五三、教会一三、電車一五台が焼失した。死傷者は警察官、消防士、軍人が四九四人、民間人は五二八人を数え、検挙者は合わせて一七〇〇人に達した。

東京の騒動は全国に波及していき、横浜では一二日から翌日にかけて、一〇ヵ所の交番・派出所が焼き打ち、破壊にあ

▶国民大会の主催者たち。左から桜井熊太郎、小川平吉、山田喜之助、大竹貫一、河野広中、細野次郎。

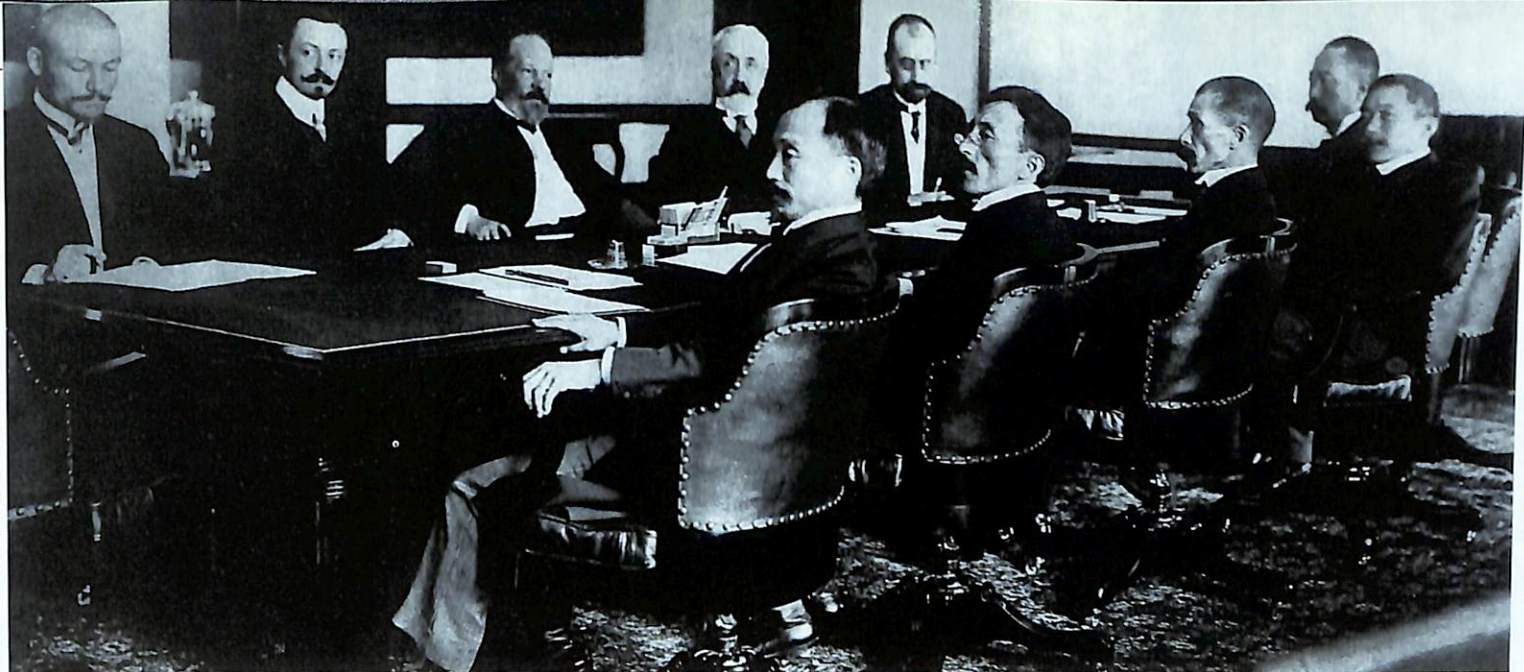
騒乱事件の始まりをとらえた連続写真

▲午後1時、国民大会会場の日比谷公園に、続々と押し寄せる人々。

▲集まった群衆のアップ。1時35分、公園正門前で小競り合いが。

▲警備にあたる夏服姿の警察官の一団。

▲木柵を踏み倒す法被姿の職人たち。　『戦時画報』(4点とも)

▶講和会議場の両国代表団。ロシア側の中央がウィッテ、その右がローゼン。日本側中央が小村寿太郎、その右が高平駐米公使。

ユニフォト・プレス

った。神戸では七日夜から八日未明に三ヵ所の派出所が破壊されている。講和反対の大会、演説会は四六道府県と、ほぼ全国で開かれたのだった。

日露とも事情をかかえ妥協案で余儀なく調印

明治三八年三月の奉天会戦の後、日本軍は武器・弾薬のストックがほとんど底をついていた。また、開戦前、八億円と見こんでいた戦費が一八億円強に達したのに加え、将兵の損失が著しく、経済的にも軍事的にも、これ以上の戦争続行には耐えられない状態だった。

ロシア側にもやはり、革命運動の高揚のため、戦争継続が不可能な事情があった。しかも、相次ぐ敗北によって、兵士の士気もどん底に落ちていた。

それぞれが〝事情〟を抱えたポーツマス会議では、ロシア全権・セルゲイ・ウィッテ蔵相（五六）に、日本全権・小村寿太郎外相（四九）は終始翻弄され続けた。しばしば、講和打ち切りを持ち出すウィッテの老練な交渉術の前に、小村は八月二九日、政府訓電に基づき、以下のような妥協案で調印を余儀なくされる。

▶講和の斡旋を依頼されたルーズベルト米大統領。

CORBIS-BETTMANN／PPS

「ロシアは、日本の韓国に対する政治・経済・軍事面での卓絶した権益を承認し、遼東半島の租借権と長春―旅順間の鉄道を譲渡する。日本は占領下のサガレン（樺太）島の北半分をロシアに返還、賠償金の要求放棄」

三国干渉（明治二八年）以降、「臥薪嘗胆」をスローガンにフラストレーションを募らせていた国民が、こうした講和条件に憤激したのは当然だった。日露戦争を「大勝利」と教えられ、一二万人もの戦病死者と二次にわたる大増税（地租を例にとると、一次では三八パーセント、二次では二五パーセント）という大きな犠牲と負担を強いられていたからである。

ゆえに、新聞や野党は一斉に、政府の「弱腰」を攻撃した。

逮捕された集会の責任者の河野らは、裁判で無罪となったが、一方、小村全権は家族の出迎えさえ制限される厳戒の中、悄然と帰国せざるをえなかった。

評論家の中嶋繁雄氏は「焼き打ち」の背景を、「賠償への期待が大きかっただけに、裏切られたという思いは一層強かった。焼き打ち事件は、一種の『ガス抜き』効果を持ち、後は急速におさまったものの、これは後の国家主義運動の萌芽でもありました」と説明する。

講和後二年を待たず、「日露協約」が明治四〇年七月三〇日に締結される。日露は相互に仮想敵国でありながら、満州（中国東北部）の既得権益を持っていたため、点で共通の利害関係を守るという手を結んだのである。

▶「戒厳令」が発布された九月六日午後、東京市中を巡邏する歩兵。

『戦時画報』

女たちの肖像

「大阪・堀江の六人斬り」で両腕を斬り落とされた芸妓・妻吉の「無手の法悦」

稲葉真弓

明治を代表する大量殺人事件、「大阪・堀江の六人斬り事件」が新聞をにぎわしたのは、この年の六月。場所は堀江遊廓の山梅楼（現・西区北堀江上通三丁目）でのことである。二〇日未明、楼の養女で芸妓の妻吉（一七＝本名・大石よね）は、異様な音で目をさました。かたわらには、生首が転がっている。次の瞬間、彼女は楼の主人、中川万次郎に両腕を斬り落とされていた。万次郎の妻・愛が夫の甥と駆け落ちしたため、これに腹をたてた万次郎が錯乱状態で、同居中の愛の母や弟妹ら五人を殺害。妻吉はこれに巻きこまれたものだった。

自伝『無手の法悦』によれば、彼女は血まみれのまま現場で二時間、人が来るのを待ったという。この事件は、陰惨さと〝奇跡〟によって明治世相史を彩るものとなったが、妻吉の数奇な運命もまた、後世に残るものとなった。

彼女が山梅楼に養女に出たのは一二歳の時のこと。明治二一年、大阪・難波の鮨屋の娘として生まれた彼女は、幼時から芸事に優れ、一一歳で京舞の名取となった。さらに舞踊をきわめるための修業として、山梅楼で西川流舞踊を習い、旦那を取らない舞妓から芸妓となった。それが突然の凶行により、芸の道を断たれたのだった。

両腕を失った彼女は、生活のため旅まわりの一座の見世物となり、各地を巡業。この旅の最中、仙台の旅館でカナリアが「腕もないのに餌を雛に与えている」のを見て啓示を受け、口に筆をくわえ書を書くことを会得したのが、第二の人生の出発だった。それを機に旅の一座からの引退を決意。四三年には、国文学者として知られた大阪生玉持明院住職・藤村叡運僧正に国文学を学び、四五年には、ぜひにと乞われて日本画家の山口草平と結婚した。一男一女の母となったものの、日常のことを家族に十分してやれない不甲斐なさから、昭和二年協議離婚。

その後の彼女は、書、絵画に専念するとともに、福祉事業に没入していく。八年、事件の犠牲者を弔うため尼僧になることを決意。法名を順教と名乗り、「満州事変」の傷病兵慰問のため渡満したほか、一一年には京都に身体障害者福祉相談所「自在会」を開設。身障者の生活の面倒を見るなど「障害者の母」として慕われた。

二二年には宗教法人仏光院を創設。一方、口にくわえた筆一本で日展入選をはたし、昭和四三年、八〇歳で波乱の生涯を閉じた。

▲奇跡的に命をとりとめた妻吉。

毎日新聞社

勝者・敗者

お土産はスクイズやバント 日露戦争たけなわの時局に早稲田野球部が海外遠征！

阿部珠樹

明治初期、日本に導入された野球は、すさまじい勢いで全国に普及していった（導入の年は明治四、五、六年と諸説あって、はっきりしていない）。

初めに覇権を握ったのは野球導入のパイオニア、第一高等学校、続いて慶応が明治二五年、野球部を作り、一高の後を追い始める。慶応宿命のライバル、早稲田に野球部ができたのは明治三〇年。伝統の早慶戦は、明治三六年に始まった。

当時は一高の力が強く、早慶戦といっても、さほど話題にはならなかった。だが、〝新興〟早稲田は猛烈な勢いで進歩していく。明治三七年には〝無敵〟一高を破り、一高時代終焉の幕引き役となる。そればかりか、慶応、学習院、横浜外国人クラブなど、当時のおもだったチームを次々に撃破し、事実上の日本一になってしまったのだ。

これにあわてたのは、野球部長の安部磯雄だった。実は安部は、選手との間で日本一になったらアメリカ遠征をさせるという約束をしていたのだ。発破をかけるための大げさな約束だったが、約束は約束である。キリスト教信者で教育者の安部は、さすがに嘘はつかなかった。日露戦争たけなわという時局に、学校当局は猛反対したが、ついにそれを押しきり、日本野球史上初めて、単独チームの海外遠征を実現させてしまったのである。

そして早稲田の一行一三人は、明治三八年四月、横浜からアメリカに旅だった。アメリカでは、在留邦人が大歓迎してくれたが、成績の方はいまひとつで、七勝一九敗、六月末に帰国した。しかし、その遠征で得たものは大きかった。スクイズやバントなどの戦術、練習方法、グラブの使用法など新知識をたっぷり仕込むことができたのである。中でも、エース・河野安通志（二一）が持ち帰ったワインドアップ・モーションは大反響を呼んだという。

ところでこの河野、渡米中にプロチームの目にとまり、誘いを受けたことがあった。学生の身ということで断ったが、もし実現していたら、野茂や伊良部より九〇年以上前にメジャーリーガーが誕生していたかもしれない。

▲5月27日、カリフォルニア州ベーカーズフィールドで撮影された遠征メンバー。後列中央が、野球部長・安部磯雄。

「神奈川の写真誌」／有隣堂提供

▲旅順祝勝の花電車（1月5日）難攻不落と言われた二〇三高地が、ついに陥落。全国各地で祝祭が開かれた。写真は小田原。長蛇の提灯行列が練り歩き、満艦飾の市電が走った。

▲反戦歌「お百度詣」（1月）歌人・大塚楠緒子(29)が、「ひとあし踏みて夫思ひ／ふたあし国を思へども／三足ふたたび夫思ふ／女心に咎ありや」と詠った。

▶大阪・富島に大阪商船ビル新装（1月）台湾・日韓航路をほぼ独占。この月には、大阪—大連航路の営業を始め、遠洋航路開拓を企図するなど拡大期にあった。設計は河合浩蔵。

「戦時画報」

◀京釜鉄道、営業開始（1月1日）日露間が急迫する中、着工以来4年ぶりに部分開業。政府は建設を急ぎ、5月ようやく漢城（現・ソウル）—釜山間が完成、開通式（写真）を挙行した。

毎日新聞社

▶酷寒の激戦（1月26日）旅順陥落もつかの間、日本軍は左翼の黒溝台を大軍団に攻められ、危機に立たされた。苦闘のすえ、29日に撃退。死傷者9300人。写真は、死屍累々の戦場。厳冬で凍死したものも多かった。

▶フォード、スピードに挑戦（1月）レーサーたちの不評を買いながら新記録を求め、1年後、10マイル30分を切った。写真は、新開発のクランクシャフトとフォード(41、左)。

明治38年 1月

1(日)●戦費捻出の非常特別税法改正、塩専売法、臨時事件支弁に関する法律改正など各公布。
2(月)●露軍の降伏で旅順開城（13日、日本軍入城）。
3(火)●第三皇孫、光宮宣仁（高松宮）誕生。
4(水)●日本郵船株の五〇円が七六円七〇銭など、旅順開城で株式一斉に暴騰。
5(木)●乃木希典第三軍司令官、旅順で露軍司令官・ステッセルと会見（水師営の会見）。
6(金)●白木屋、旅順陥落祝し百貨店初の福引大売り出しを一〇日間開催（一等は五〇円の呉服券）。
7(土)●日比谷公園で旅順攻略東京市大祝捷会を開催。
8(日)●東京電気、米・GE社と融資・技術提携に調印。
9(月)●フィリピン・ホロ島で独立めざすウサップの叛乱起こる（4月10日にもパラの叛乱）。
10(火)●台湾銀行、中国で初めて支払い手形を発行。
11(水)●東京地裁、反戦論の幸徳秋水らに有罪判決。
12(木)●大本営、第三軍再編と鴨緑江軍新編制を決定。
13(金)●海軍、潜水隊を創設（10月、五艦で編成）。
14(土)●大阪商船、大阪—ダルニー間で航路を開設。
15(日)●祝勝の軍用軽気球が東京・吾妻橋にあがる。
16(月)●露・ペテルブルグで工場スト(22日デモに軍が発砲し一〇〇〇人以上死亡。血の日曜日事件)。
17(火)●「大阪毎日新聞」、初めてニュース写真を掲載。
18(水)●韓国で貨幣条令公布、日本貨幣の流通を公認。
19(木)●独・ウェストファーレン炭鉱地帯で閉山反対スト、労働者二一万五〇〇〇人が参加。
20(金)●加藤恒忠らを万国海事会議の参列委員に任命。
21(土)●東京と千葉を結ぶ江戸川橋、渡橋式。
22(日)●満州軍総司令部、奉天作戦を策定。結氷期に物資拡充はかり、露軍の退路を断つなど。
23(月)●露、全市で血の日曜日事件抗議のスト起こる。
●奈良県小川村の猟師、米国人に死んだニホンオオカミを売却（最後のニホンオオカミ）。
24(火)●今井歌子ら、婦人の政治活動を禁止した治警法改正の請願書を衆院に提出(2月28日否決)。
25(水)●黒溝台で露軍一〇万が反撃（29日撃退占領）。
26(木)●南アで三一〇六カラットのダイヤ発見、英国王冠に。
27(金)●露領ポーランドで独立求める武装デモ。
28(土)●仏の女性誌「ビー・ウールーズ」が女性のための文学賞「フェミナ賞」を創設。
29(日)●「平民新聞」、第六四号を赤刷りにして廃刊。
30(月)●株式市場、和平の動き見こし高騰続く。
31(火)●第一銀行、韓国政府と国庫金などの事務扱いに関する契約締結（韓国の中央銀行化へ）。

ニュース・ファイル

1905

フォト＋日録で再現する365日

日本海海戦に勝利した日本は講和会議にのぞんだ。多大な犠牲を強いられた国民は政府の妥協に騒ぎ、東京では戒厳令が敷かれた。敗戦国・ロシアでは革命の胎動が起きた。アインシュタインの物理学の偉業「特殊相対性理論」が、発表されたのもこの年だった。

◀ステッセル将軍夫人、長崎へ（1月14日）旅順陥落で降伏した夫や将校、その家族ら約1000人と来日。前列中央が夫人と戦災孤児ら。「名誉を傷つけぬように」との露皇帝の言葉どおり、ほどなく本国へ帰還した。
「戦時画報」

2〜3月

Topham/ユニフォト・プレス

◀セルゲイ大公、暗殺（2月17日）テロリストが、「血の日曜日」の報復をとげた。大公は、皇帝の叔父でモスクワ総督、ロシア政権の重鎮だった。写真右は夫人。

「警視庁百年の歩み」

▶東京市、ペスト予防に躍起（2月）菌の媒介・拡散を阻止するため、前年から1匹5銭でネズミを買い上げ、28日までに約123万匹。写真は、渋谷・祥雲寺に建立の「鼠塚」。

Ullstein／ユニフォト・プレス

▲シンプロントンネル貫通（2月25日）アルプスのシンプロン峠を掘り、伊—スイスを鉄道で結ぶ計画が、10年ぶりに実現した。全長19.8キロは世界一。写真は、翌年6月にイタリア側で行った開通式。

HULTON GETTY／オリオン・プレス

▲ロンドンで大モーター・ショー開幕（2月11日）英皇太子夫妻の熱狂ぶりが伝えられ、車への偏見を一掃。夫妻は、5000マイル走破の英国車「シドリー」に、目を輝かせた。写真は展示された「ローバー」。

◀「森下仁丹」登場（2月）祝勝気分に沸く大阪で、漢方薬製造の森下博薬房（写真）が、「消化と毒けし・完全なる懐中薬」と新聞に1ページ広告を打ち発売。2年目には、家庭薬販売で1位に躍進した。

毎日新聞社

◀外債の募集順調（3月29日）旅順陥落などの戦勝が原因。開戦以来、欧米を往復し、戦費調達に走る日銀副総裁・高橋是清（50、前列右端）が、3000万ポンドの低利英貨公債の発行契約にこぎつけた。

明治38年 2月

1（水）●大蔵省、タバコ製造所を全国に三二ヵ所設置。
2（木）●農商務省、市場場外での取引禁止を通達。
3（金）●韓国、警務顧問に丸山重俊招聘（警察権掌握）。
4（土）●アルゼンチンで急進党の革命勃発。
5（日）●広島県の横川—可部間に乗合自動車開業（馬車運送業者の反対で11月に廃業）。
●平民社、週刊新聞「直言」を創刊。
6（月）●東郷平八郎連合艦隊司令長官、東京を出発（21日、朝鮮・鎮海湾の艦隊根拠地に到着）。
7（火）●浦賀船渠の労働者三〇〇人、賃上げ要求スト。
8（水）●一一年ぶりに太陽の黒点再発見、と新聞に。
9（木）●児玉源太郎満州軍総参謀長、遼陽で川村景明鴨緑江軍司令官と協同作戦に関し協議。
10（金）●高橋是清日銀副総裁、外債募集のため渡欧を命じられる（17日、横浜を出発）。
11（土）●森下博薬房（現・森下仁丹）、仁丹を発売。
●ダルニーを大連と改称。
12（日）●露貴族院、皇帝に帝政維持に必要な改革を請願（皇帝、労働者の生活状況調査を命令）。
13（月）●旅順の二〇三高地占領後、同地で捕獲された大鷹が天皇へ献上のため東京着。
14（火）●商船「名取川丸」、大阪港で濃霧のため沈石に乗り上げ沈没、乗客九四人が行方不明。
15（水）●沖縄の干害に二五〇〇万円の救恤金を下賜。
16（木）●実用新案・郵便貯金・蚕病予防・国債証券・貯蓄債券の利子所得税免除の各法公布。
17（金）●社会革命党員、モスクワ総督・セルゲイを暗殺。
18（土）●野戦郵便局、為替事務の取り扱いを開始。
19（日）●モスクワの鉄道労働者スト、鉄道渋滞始まる。
20（月）●大山巌満州軍総司令官、各軍司令官を集め奉天（瀋陽）攻撃の準備を命令。
21（火）●衆議院、居留民団法案を可決（3月8日公布）。
22（水）●内務省、竹島を島根県の所轄と定める。
23（木）●夕張炭坑の坑夫五〇〇人、賃上げ要求スト。
●米国・シカゴでロータリークラブが発足。
24（金）●耕地整理法改正公布、灌漑排水事業が重点。
25（土）●関野貞、法隆寺金堂の非再建説を発表（4月、喜田貞吉が反論し、法隆寺再建論争さかん）。
26（日）●大阪地裁、大阪保険の解散を決定。
27（月）●大蔵省、軍事公債一億円発行規定を公布。
●危険分子として逮捕されていた露の作家・ゴーリキー、リガ居住の条件つきで釈放。
28（火）●東京市がペスト予防で買い上げたネズミ、年間一二三万六九〇〇匹、四万一一〇九円。

毎日新聞社

▲奉天占領（3月10日）前月28日来、日本軍25万、露軍32万が激突した、日露戦争最大の会戦がついに終止符。写真は15日、奉天（瀋陽）に入城する大山巌総司令官。この日は、後に陸軍記念日となった。

▶高峰譲吉、ニューヨークに日本人倶楽部創設（3月）在米の世界的化学者（50、後列右から5人目）が、日米親睦のため結成した。社交室には留学生もよく集まり、野口英世（28、前列左）の顔もあった。

▼遠藤波津子（42）、「理容館」開業（3月）東京・京橋に開店。白粉を塗るだけだった化粧法から、肌から美しくするという画期的な「美顔術」を米国から導入して、たちまち人気になった。1回50銭。

遠藤波津子グループ提供

▶日本海軍、初の潜水艇採用（3月30日）米国に発注、横須賀工廠で組み立てた5隻が次々進水。全長約20メートル。10月には、潜水隊が創設された。

▼長崎三菱造船所、大ドック竣工（3月17日）全長218メートルで、国内最大の規模。大艦の国産化に備え、8000トン級戦艦の建造が可能になった。

「太陽」

▶幸徳秋水、入獄（2月28日）「平民新聞」筆禍事件で、軽禁固5ヵ月の刑を受けた。写真は同日、入獄前の記念撮影。右から8人目が秋水（33）。社会主義運動に暗雲がきざし、11月には渡米する。

明治38年 3月

1（水）●日本軍、奉天の露軍に総攻撃開始（10日奉天を占領、15日奉天入城式）。
2（木）●米国・カリフォルニア州議会、日本人移民阻止の決議案を採択。
3（金）●住友伸銅場、大砲信管材の製造を開始。
4（土）●ルーズベルト米大統領、二期目の就任式。
5（日）●小栗風葉、「読売新聞」に「青春」の連載を開始。
6（月）●教諭排斥で停学の浦和中学校四年生五七人、中心生徒一一人をのぞき復学、と新聞に。
7（火）●寄席で演劇類似の興行が禁止に、と新聞に。
8（水）●医師免許規則改正、文相指定の私立医専卒業生にも無試験で開業免許を下付。
9（木）●二年前から埼玉・山梨・東京で土蔵破りを繰り返した「小仏の弥七」が逮捕される。
10（金）●有価証券の担保を認めた日本興銀法改正公布。
11（土）●陸軍省令改正公布、徴兵検査の身長規準を五尺以上から四尺九寸五分以上に引き下げ。
●伝染病予防法一部改正、ペスト流行に対処するため、ネズミ駆除を市町村に義務づける。
12（日）●軍人軍属が大連倶楽部を設立、と新聞に。
13（月）●大山巌満州軍総司令官、休戦含む政戦両略の一致と作戦方針案を大本営に打電。
14（火）●参謀総長・山県有朋、大山巌の政戦両略の意見を上奏（23日、主要閣僚に提出）。
15（水）●日刊紙「大阪時事新報」創刊。
16（木）●露・バルチック艦隊、仏領マダガスカルを発進。
17（金）●露皇帝、クロパトキン満州軍司令官を罷免。
18（土）●福岡・田川炭鉱で落盤事故、一〇人が死亡。
19（日）●日本軍、満州（中国東北部）の要衝・開原占領。
20（月）●硫黄島の東に小島噴出し「新領土」と新聞に。
21（火）●人気回復ねらう落語研究会、東京で初の公演。
●古河鉱業、設立（社長・古河潤吉）。
22（水）●英、少年の炭鉱労働に八時間制を実施。
23（木）●京都帝大に薬物学、産科学講座を新設。
24（金）●高橋是清、外債発行で英銀行団と契約を締結（29日ロンドンで募集開始、払い込み好調）。
25（土）●露軍の捕虜六二〇人、習志野収容所に到着。
26（日）●岡倉天心、欧米の講演旅行から帰国。
27（月）●綿糸紡績、世界の市場に進出、と新聞に。
28（火）●児玉満州軍総参謀長、休戦促進のため帰京。
29（水）●陸軍、脚気増加で米麦七対三の混食奨励訓令。
30（木）●東京—佐世保間に電話回線開通。
31（金）●独皇帝、タンジールでモロッコの独立と領土保全を声明（第一次モロッコ事件）。

▲**梅毒病原体を発見(4月)** ドイツのホフマン(写真右)と、シャウディンが「スピロヘータ」を特定した。今日で言うトレポネマ属の一種で、狭義のスピロヘータと異なり、長い鞭毛(写真左)が特徴。

毎日新聞社　Ullstein/ユニフォト・プレス

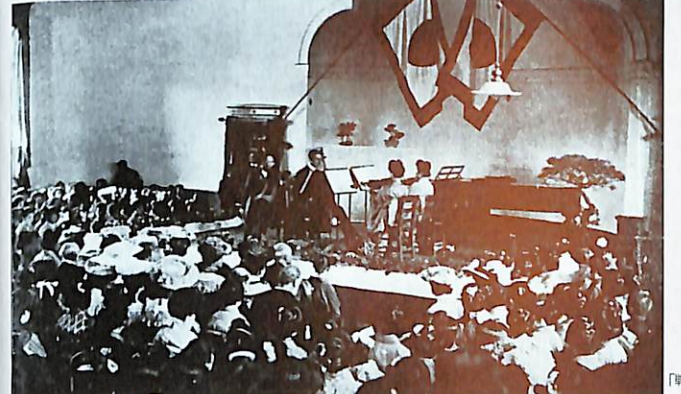
◀**島崎藤村、東京へ(4月)** 小諸義塾教師を辞し、東京・西大久保に移転。未定稿の「破戒」が手元にあり、翌年、出版されセンセーションを巻き起こした。写真は、小諸城跡で卒業記念の撮影、藤村(33、前方中央の黒マント姿)と教え子たち。

「太陽」

▶**紀貫之、従二位に(4月18日)** 官人としては従五位上に終わった『古今和歌集』の撰者に、1000年忌を記念し追贈。比叡山に伝わる墳墓(写真)で、祝典が行われた。

「戦時画報」

◀**上野で寄付音楽会(5月14日)** 音楽学校で開かれ、同校教授・ユンケル、幸田幸・延ら(写真)が出演。収益金は慈善団体・同仁会に贈られた。

▶**阪神電鉄、大阪―神戸間開通(4月12日)** 日本初の都市間電車が誕生、30キロ余の距離を90分で走った。昭和14年に、神戸は三宮・元町へ、大阪は梅田へ延長された。

▲**石川啄木(19)、処女詩集『あこがれ』刊行(5月3日)** 上田敏が序詩、与謝野鉄幹が跋文を寄稿。若き明星派詩人の船出だった。しかし、父の住職罷免で帰郷。写真はその途次仙台で。左が啄木。

ユニフォト・プレス

◀**マタハリ、デビュー(5月13日)** パリのムーラン・ルージュで初舞台。29歳。妖艶な踊りで男たちを虜にしたが、第1次世界大戦で独スパイ網に組みこまれ、1917年、仏当局に銃殺された。

証言・あの日この日
高橋是清(50)

5月29日(月) 〈ニューヨークに移動していた私のもとに、松尾日銀総裁から一通の電報が届いた。「一昨日午後より対馬海峡にて大海戦あり、わが艦隊は大勝利を得た」これこそは、ロシアのバルチック艦隊と日本の連合艦隊との間で繰り広げられた日本海海戦のことであり、この海戦における日本側の大勝利は、日露戦争に最後の判決を下すものであった〉(高橋是清『高橋是清自伝』)

当時、日本銀行副総裁の職にあった高橋是清は、日露戦争開戦とともに、戦費調達のため、外債募集の大任を負って英米を往復していた。世界最大の陸軍国・ロシアと戦うだけの経済力が、まだ日本にはなかったからだ。高橋の努力と英米の好意で外債募集は順調に進んでいたが、それにも限界があった。この日、高橋は日本海海戦の勝利を知り、ホッと胸をなでおろす。　(山崎行太郎)

▼**ロシアに「ソビエト」誕生(5月26日)** 大規模なストに入っていたモスクワの東方の町、イワノボ-ボズネセンスク(現・イワノボ)で労働者代表が組織。この年、諸都市でストが続発、帝政は瀕死の状態だった。

ノーボスチ通信社

▼**「エンゼルマーク」が誕生(5月9日)** 森永が、販売拡大で初めて新聞広告に使った。由来は、主力商品・マシュマロの別名・エンゼルフード。天使が握るTMは店主・森永太一郎の頭文字。

西洋菓子
登録商標
TM
天童印
▲フレンチメキスト
▲バタカップ
▲キャラメル
▲チヨコレートクリーム
近頃粗製ノ類似品アリ御注意ヲ乞フ 天童印
バナナマシマロー製造元
東京赤坂田町
森永商店

「戦時画報」

▲**戦死者合祀の臨時大祭(5月3日)** 東京・靖国神社で、日清戦争以来、2回目。日露戦争で没した陸軍2万8999人、海軍1887人が合祀され、全国から遺族が参拝。市民も多数訪れた。

明治38年4月

1(土)●刑の執行猶予制度を創設の法律公布。●通信事業委託の日韓取極書に調印(5月18日、日韓通信業務合同で韓国の通信機関を接収)。
2(日)●愛知県の瀬戸電気鉄道、矢田―瀬戸間開業。
3(月)●土肥慶蔵ら日本花柳病予防協会、設立。
4(火)●早大野球部一三人、野球チーム初の海外遠征で米国へ出発(二六戦七勝、6月29日帰国)。
5(水)●日刊紙「日本」、トルストイ作の「復活」を内田魯庵訳で連載開始。●荒畑寒村らの社会主義伝道行商、東北へ出発。
6(木)●大阪相撲の若島、熊本市で横綱免許授与式。
7(金)●東京・浅草の囲碁会所など密淫売で営業停止。
8(土)●バルチック艦隊の四三隻の艦船、シンガポール沖を通過(13日、仏領カムラン湾に到着)。
9(日)●警視庁、芸妓の口入営業取締規則を制定。
10(月)●東京帝室博物館展示の、エジプト寄贈のミイラ一体が連日異常な人気、と新聞に。
11(火)●ウラジオストクで日本軍将校五人、スパイ容疑で絞殺される。
12(水)●阪神電車、大阪―神戸間が開業。二〇銭。
13(木)●韓国、日本の指示で親衛隊全廃、軍隊を半減。
14(金)●東京・深川の小学生にペスト菌発見(東京では七月までに一二人死亡)。
15(土)●北沢楽天、マンガ専門誌「東京パック」を創刊。
16(日)●東京府営の品川砲台体育場が竣工し一般公開。
17(月)●元老会議、米国仲介の対露講和促進で一致。
18(火)●丹治直治郎、出征軍人遺族の救護施設、平安養育院を京都市に創設(5月開所)。
19(水)●戦争長引くか、大量の軍用蚊帳受注と新聞に。
20(木)●官営の刻みタバコ「ふじ」など六種発売。
21(金)●閣議、樺太割譲など対露講和条件七項目決定。
22(土)●台湾海峡・澎湖島在住の日本人婦女子全員が、バルチック艦隊来航のため台湾に引揚げ。
23(日)●大阪婦人慈恵会、授産所を設けて、通勤女性のため幼児収容所を併設。
24(月)●倉敷紡績、業績堅調で工場増設と増資を決定。
25(火)●ボルシェビキ、英で大会開催(~5月10日)。
26(水)●東京水力電気と武相電力が合併して発足する東京電力、設立発起人会を開催。
27(木)●万国博覧会、ベルギーのリエージュで開幕。
28(金)●坪内逍遥を中心とした朗読研究会、易風会と命名し東京で雅劇「妹山背山」を上演。
29(土)●第一高等学校の弁論部、模擬国会を開催。
30(日)●仏の統一社会党結成(第二インター仏支部)。

明治38年5月

1(月)●東京の平民社で初のメーデー集会「五月一日茶話会」を開催、堺利彦・木下尚江らが演説。
2(火)●露艦隊東航の報に戦時輸送保険急騰と新聞に。
3(水)●靖国神社で臨時大祭、日露戦争合祀者三万人。
4(木)●報知新聞社、東京・麹町に新社屋開設。最新鋭の色刷り輪転機二台で印刷開始。
5(金)●黒人向け「シカゴ・ディフェンダー」紙創刊。
6(土)●売薬に一割課税の売薬税法公布。
7(日)●米国・サンフランシスコで日本人排斥大会を開催、「日本人・朝鮮人排斥同盟」を結成。
8(月)●第一回早慶ボートレース開催、早大が勝利。
9(火)●森永西洋菓子製造所(現・森永製菓)、エンゼル商標を登録し、新聞広告で使用開始。
10(水)●千葉の漁民三五人、朝鮮に移住「千葉村」建設。
11(木)●岡村柿紅らの文士劇「若葉会」、東京・歌舞伎座で「日蓮上人辻説法」を初演。
12(金)●米国のスタンダード石油、横浜と神戸に油タンクを設置、と新聞に。
13(土)●門司の石炭仲仕七〇〇〇人、賃上げ要求スト。●女性舞踏家のマタハリ、パリでデビュー。
14(日)●バルチック艦隊、日本海向けカムラン湾発進。
15(月)●輸出のための花筵検査規則を公布。
16(火)●占領した撫順炭坑は無限の宝庫、と新聞に。
17(水)●英外相、日英協約を攻守同盟にと提議(24日新同盟案を閣議決定、26日英外相に提示)。
18(木)●大阪商船、大阪―漢口航路を開業。
19(金)●大阪・難波の土橋詰に常設相撲場、起工式。
20(土)●日本重石(タングステン)(株)、設立。
21(日)●風俗壊乱で処分された出版物は一年間に八一〇件で四月以降急増、と新聞に。
22(月)●ハーグ国際仲裁裁判所、英・仏・独提訴の居留地家屋課税に関し日本敗訴の判決。
23(火)●名古屋の露軍捕虜、羽目をはずしすぎ問題化。
24(水)●横須賀の三浦按針塚を発掘、と新聞に。
25(木)●京釜鉄道、漢城(現・ソウル)―釜山間全通。
26(金)●露で初の労働者代表ソビエトが成立。
27(土)●連合艦隊、日本海でバルチック艦隊と戦闘、露軍を全滅させる(~28日、日本海海戦)。
28(日)●薬店主殺しの野口男三郎を逮捕(12日の義兄殺し、三年前の少年臀肉事件の犯人と判明)。
29(月)●東京砲兵工廠で爆発事故、死者一六人、重軽傷一〇四人の大惨事。
30(火)●独、モロッコ問題で仏外相更迭を要求。
31(水)●海軍の勝利でロンドンなど日本公債が暴騰。

▶大林組の本店竣工(6月)大阪築港で基礎を得、商業の中心、北浜に新店舗(写真)をかまえ事業拡大。翌年には本格的に東京進出、明治44年、東京駅の建設を手がけ、大手企業となった。

大林組提供

◀新派の「金色夜叉」上演(6月)東京・日本橋の真砂座で、尾崎紅葉の名作を小栗風葉が脚色、伊井蓉峰の寛一、河村昶のお宮で上演。川上一座の正劇とは一線を画す、新派の舞台を見せた。

▲竹久夢二、初の落款(6月20日)雑誌「中学世界」の懸賞募集に、少年少女を描いた「筒井筒」を投稿、1等入選。20歳で「夢二」と署名した第1作だった。

▼アインシュタイン「特殊相対性理論」完成(6月30日)弱冠26歳。ユダヤ人だったため、スイスの特許局審査官の職しかなく、勤務のかたわら、今世紀最大の業績をなしとげた。

「婦人画報」

▶佐佐木信綱(32)、貴婦人歌会を指導(6月11日)和歌革新の旗手と言われる一方、御歌所派とも交流。写真中央が佐佐木。酒井・松平夫人らが相手だった。

◀伊藤証信、東京に無我苑を設立(6月)トルストイの思想にひかれ、浄土真宗大谷派(東本願寺)の僧籍を捨てて開いた「無我愛」実践の場。写真中央が証信(28)。

明治38年6月

- 1(木)●高平公使、米大統領に日露講和斡旋を要請。●塩の専売制が始まる。
- 2(金)●広島中心にM七・六の地震、一一人死亡、家屋全半壊一六九戸などの被害(芸予地震)。
- 3(土)●モロッコ、列国を国内改革に関する国際会議に招請(7月8日、仏も同意)。
- 4(日)●露皇帝は戦争継続を希望している、と外電。
- 5(月)●大蔵省と外務省の労をねぎらい、酒八樽と料理三〇〇人分を下賜。
- 6(火)●京都府、淀川の木材流下を許可制とする。
- 7(水)●ノルウェー議会、スウェーデンとの同君連合解消を宣言(10月26日、分離条約調印)。
- 8(木)●台湾総督府、臨時戸口調査規制を発布。
- 9(金)●米大統領、日露講和を勧告(10日、日本、12日、露が承諾。26日、交渉地にポーツマスを指定)。
- 10(土)●独医学者・ベルツ、帰国。二九年間在日。
- 11(日)●米国鉄道会社、ニューヨーク—シカゴ間を世界最速の一八時間で結ぶ急行列車の運行開始。
- 12(月)●兵庫県で有馬自動車㈱設立。バス二台で運行。
- 13(火)●東本願寺、財政紊乱問題で前宗務総長を除名。
- 14(水)●児玉満州軍総参謀長、対露交渉を迅速・有利にするため、樺太占領案を大本営に打電。
- 15(木)●帝室技芸員・川島甚兵衛の「つづれ錦」をベルギーの万国博に出品、と新聞に。
- 16(金)●日銀、公定歩合を二厘引き上げ金融引き締め。
- 17(土)●シンガポール・天津・南京で米国の排外的移民法に反対決議、米国製品ボイコット。
- 18(日)●大本営、新設の第一三師団に樺太占領を命令。
- 19(月)●対露同志会が講和問題同志連合会を結成。
- 20(火)●大阪・堀江の貸座敷経営者、家族や抱え芸妓・妻吉ら六人を殺傷(妻吉事件)。●竹久夢二、「中学世界」に初の投稿挿絵。
- 21(水)●文部省、優秀な教育者を官報に公示する小学校教育効績状規程を制定。
- 22(木)●農商務省、鉱業警察規則を改正公布。
- 23(金)●米国、排外的移民法から清国商人・学生ら除外。
- 24(土)●三越呉服店、巌谷小波ら招き流行研究会設置。
- 25(日)●関東州民政署、開庁式(長官・石塚英蔵)。
- 26(月)●東洋汽船、南米航路の開設を決定。
- 27(火)●露の戦艦「ポチョムキン号」で水兵が叛乱。
- 28(水)●立憲政友会の原敬ら、戦争継続含む強硬な対露決議案を桂首相に手渡す。
- 29(木)●東京・明治座、従軍写真班の日露戦争映画上映。
- 30(金)●アインシュタイン、「特殊相対性理論」を完成。

「現場」を歩く 東吉野村

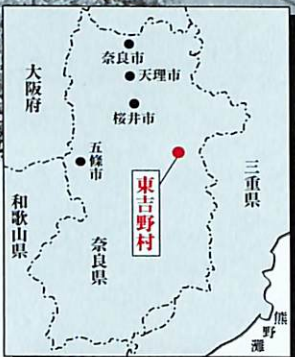
“最後の一匹”が捕獲された地にいまだ残るニホンオオカミ生息説

山本徹美

▲東吉野村小川に建つ、ニホンオオカミのブロンズ像。明治初年までは多数生息していたが、末年に北海道のエゾオオカミと相前後してともに姿を消している。 但馬一憲

明治三八年一月二三日、東亜動物学探検隊の一員として英国から派遣されたアメリカ人動物学者、マルコム・P・アンダーソン(二六)と一行は、奈良県小川村鷲家口(現・東吉野村小川)にある宿屋「芳月楼」で一〇日目の朝を迎えた。

この“探検”には、第一高等学校生徒だった金井清(二一=後に諏訪市長)が通訳兼助手で雇われ、同行していた。金井が残した記録『日本で捕れた最後の狼』によると、同日午前中、三人のたくましい猟師が一匹の狼を運んで来て、一〇円五〇銭で買わないか、と言う。金井は、八円五〇銭なら買ってもよい、と交渉したが、猟師たちは納得せず、狼を持ち帰った。剝製を製作中でその場に立ち会えなかったアンダーソンの「失望は言語を絶するものだった」が、猟師は午後、再び現れ、金井の提示した値段で手渡した。

その狼は猟師が撃ちとったものではなかった、と上野益三(故人・元甲南女子大学教授)が「鷲家口とニホンオオカミ」(昭和四三年、同大研究紀要)で明らかにしている。同論文によると、筏師たちが貯木用の堰で筏を組んでいると、鹿を追って狼が現れ、氷の張った堰に飛びこみ、下半身がはまった。それを目撃した筏師らが撲殺、放置したものだという。

アンダーソンによって狼は剝製にされ、大英博物館の所有に。以後、ニホンオオカミの生存は確認されていない。

狼はいないが自然は残る

鷲家口を訪ねてみた。“近畿の屋根”台高山脈の山懐にあり、重畳たる鋸歯状の山々が森林を形成している。東に高見川の清流を眺めながら県道を北上すると、「ニホンオオカミの像」の標識が目にとまる。西側の山の斜面を削って平坦にしたところへ、咆哮する狼のブロンズ像が設置してある。専用駐車場まで設けてあった。東吉野村教育委員会の富永健・教育次長が建立のいきさつを説明する。

「狼にしてみれば、ここが終焉の地。絶滅寸前の狼が生息できたほど、大自然が残されているというのが主旨です」

地元の研究家・山添満昌氏(現・八一歳)は、狼に関する「聞き書き」を調べている。

「狼は塩を好むと言われ、実際に塩を運んでいる途中に襲われたとの証言もある。狼が嗅ぎつけるから、小便タゴ(桶)は家の外に出せ、という言い伝えもある。いずれも明治一〇年代までの話です」

明治三八年以降、ニホンオオカミの目撃談はいくつかあるが、いずれも誤報だった。本物は両前肢に黒く細長い斑紋が出現するのが特徴。狼はまだ生きている、と捜索やフォーラムを展開する向きもある。が、富永教育次長は困惑気味だ。

「うちの村にはまだ狼がおる、というのは困ります。危険な有害獣ですから」

深い森に囲まれ、鮎の豊富な高見川の流れる東吉野村には、「もしや狼が」と思わせる自然環境は残っている。もはや開発し尽くされた感のある日本列島にあって、それは貴重な資源だと思う。

▲最後に捕獲されたニホンオオカミの頭骨。サイズは、体長が91.4センチ、尾が34センチ。

ベストセラー
新時代の到来を告げる詩集 上田敏『海潮音』の名訳！

この年七月、国木田独歩の短編集『独歩集』が刊行され、哲学的な会話を軸にした作品「牛肉と馬鈴薯」も収録されており、話題になった。

牛肉とは現実の欲望を象徴するものであり、馬鈴薯は、開拓の理想に燃え北海道に渡ったものが日々食べるところから、理想を追求することの苦しさを象徴している。そんな理想と現実のはざまに揺れる青年たちに、主人公は「不思議なる宇宙を驚きたい」という希望を語る。驚くことによって、人間の根底にあるものを知ることができるのではないかというのであった。

またこの年一〇月には、上田敏が主として雑誌「明星」に発表した訳詩を集めた『海潮音』が刊行され、新しい時代の到来を告げる詩集として大いに話題となった。英、独、仏など西欧各国二九人の詩人の作品を翻訳紹介したもので、後々まで多くの人に読まれた。カール・ブッセの「山のあなた」(山のあなたの空遠く／「幸」住むと人のいふ…)やブラウニングの「春の朝」(時は春／日は朝／朝は七時……)のほか、ボードレールやマラルメなどの象徴詩も翻訳された。中でもヴェルレーヌの「落葉」は「秋の日の／ギ(ヴィ)オロンの／ためいきの／身にしみて／ひたぶるに／うら悲し……」という名訳で、長く親しまれる作品となった。

この『海潮音』に訳出されたような象徴詩の影響を受けながらも、独自の境地を切り開いて注目されたのは、蒲原有明の詩集『春鳥集』だった。その序文で有明は「視聴等の諸官能は常に鮮かならざるべからず、生意を保たざるべからず」と記し、詩人の存在意義を明らかにした。「日の落穂、月のしたたり、／残りたる、誰か味ひ、／こぼれたる、誰かひろひし、／かくて世は過ぎてもゆくか……」という「日のおちぼ」などがおさめられた詩集だった。

◀『独歩集』(近事画報社、40銭)

▲『海潮音』(本郷書院、1円)

▲『春鳥集』(本郷書院、70銭)

日本近代文学館提供(二点とも)

スターと名場面
メリエス作の先駆的SFX「月世界旅行」の奇想天外！

常設の映画館が、東京・浅草の電気館しかなかったにもかかわらず、活動写真＝映画に対する人々の期待は大きく、常に新しいソフトを求めていた。それにこたえたのが日露戦争の実写フィルムで、この年も戦況の推移とともに送られてくる映像を、それこそ戦場にのぞんでいるかのような感覚で見ることができたのである。そのようなドキュメントが人気を呼ぶ一方、外国から輸入された、映画ならではのトリッキーな画面を持つフィクションも大いに人を喜ばせた。

フランスのジョルジュ・メリエスが撮った「月世界旅行」はその代表的な作品で、この年、日本で公開された。これには「不可能な世界への旅」という前編もあって、タイトルどおりSFXの先駆的な映画だった。実写とアニメを組み合わせて夢のようなシーンを実現させたり、乗りものの衝突シーン、炎上シーンなど、トリック撮影を駆使して人々を驚かせ、楽しませた。

またアメリカではすでに明治三六年に「大列車強盗」が製作されていた。この映画には、暴力シーンや馬での追跡、撃ち合い、走行中の機関車の上での格闘など、アクション映画の原型を思わせるシーンがたっぷりあって、映画の持つ可能性の大きさを感じさせた。

マツダ映画社提供

▲「月世界旅行」は、手品師としても当代一流のエンターテイナー、ジョルジュ・メリエスの面目躍如たる作品だった。

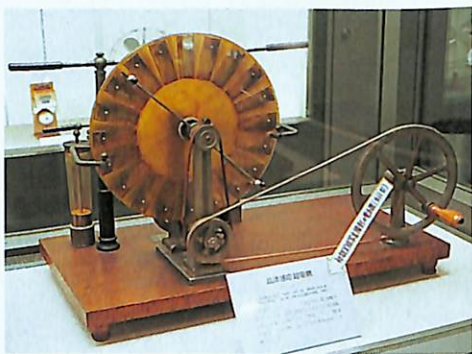
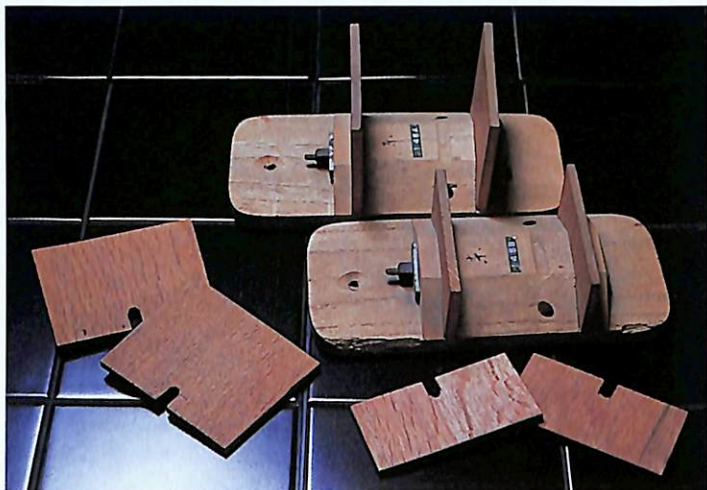
ジュネス企画提供

▶「不可能な世界への旅」もメリエスの作品で、トリッキーな場面が多かった。

▼「大列車強盗」の機関車の上の格闘シーン。動きのある場面が多く、見るものをあきさせない作品だった。

ジュネス企画提供

モノ語り'05
「下向き式石油ランプ」「ネジ止め差歯下駄」「赤大粒仁丹」に発揮された"明治の工夫"

▶**電気を起こす機械が教育に使われていた**　すでにイギリス人によって発明されていた、高圧の静電気発生装置「感応起電機」を、日本の発明王と称される二代目島津源蔵が、日本で最初に完成させた。これが、写真の「島津感応起電機」である。完成当初は「島津の電機」とも呼ばれ、長い間、科学教育の場で活躍した。
島津創業記念資料館蔵／石井美雄

◀**石油ランプの応用編が出た時代**　この頃になると、さまざまな用途に合わせたランプが作りだされていたが、この「下向き式石油ランプ」は、炎が上に向かう原理にさからい、バーナーの火口を下に向けたもので、養蚕室の照明や集魚灯としても用いられていた。写真には写っていないが、下にホヤが取り付けられ、筒の上部から煙を出す仕組みになっていた。
日本のあかり博物館蔵／江頭徹

▲**下駄の工夫もいろいろ**　下駄もその機能性が追求され、写真に見るような「ネジ止め差歯下駄」もお目見えした。桐の台に樫(かし)などの歯を差せるようにした雨天用の下駄で、高下駄と利休(りきゅう)という高低の2種類を使い分けた。
日本はきもの博物館蔵／石井美雄

▲**超ロングセラーとなった保健薬の登場**　現在も親しまれている仁丹の第1号商品「赤大粒仁丹」が、この年、森下博薬房(現・森下仁丹)から発売された。商品名のとおり、当時はベンガラでコーティングされた赤い粒だった。現在のような銀箔になったのは、昭和5年のこと。総合保健薬としての仁丹の開発は、創業者である森下博が台湾に出征した際に目にした、飲みやすく万病に効くという丸薬からヒントを得たもの。携帯用の「一粒出しケース」も、発売当時から作られていた。

カイゼル髭の人物は外交官だった！

仁丹のトレードマークの「大礼服マーク」は、日露戦争時代のものだっただけに軍人と思われがちだが、実は創業者が外交官をイメージしたもので、「仁丹は薬の外交官」という意味を持たせたのだという。そして、時代とともに、勲章が少なくなるなどシンプルになってきたが、原型は変わることなく今日にいたっている。これは「商標はいったん採用した以上、変更してはいけない」という、創業者のポリシーによるものだそうだ。

明治三八年　大正五年　大正一〇年
昭和二年　昭和二五年　昭和四九年

▲**火を使って炊事のまねごとをした**　ままごとの道具は、江戸時代から明治時代にかけて、土焼製のものが多かった。写真は、明治時代に製作・使用された「ままごと用玩具」で、釜には火でこげた跡が残っている。これは土焼製という点を利用し、実際に火を使って、炊事のまねごとをしたためである。昭和24年頃からプラスチック製のままごと道具が出てくるようになるまでは、真鍮(しんちゅう)や銅、ブリキ製のものも作られていた。
日本玩具資料館／小森谷信治

▶**いよいよ蓄音機も流行のきざし**　まだ国産は無理だったが、この頃になるとさかんに「蓄音機」が輸入・販売されるようになり、新しい時代のメディアとして、流行・普及のきざしを見せていた。写真は、アメリカのコロムビア製作の輸入蓄音機で、人気アイテムのひとつだった。
梅屋提供

人物クローズアップ

喜田貞吉（三三）

法隆寺をめぐる大論争！実証主義で「再建」を主張

明治三八年四月、文部省図書審査官で歴史学者の喜田貞吉（三三）が、「関野・平子二氏の法隆寺非再建論を駁す」という論文を「史学雑誌」に発表した。

この年の二月、建築史家の関野貞（三七）と美術史家の平子尚（二七＝鐸嶺）が、それぞれ「法隆寺金堂塔婆及び中門非再建論」「法隆寺草創考」と題する論文を発表し、法隆寺非再建論を展開した。

▲喜田の主張の正しさを証明した若草伽藍の発掘調査。　東京都立中央図書館

喜田の論文は、歴史学者の立場からこれらに真っ向から反駁を加えたもので、これを機に、法隆寺「再建」「非再建」の論争が展開されることになったのである。

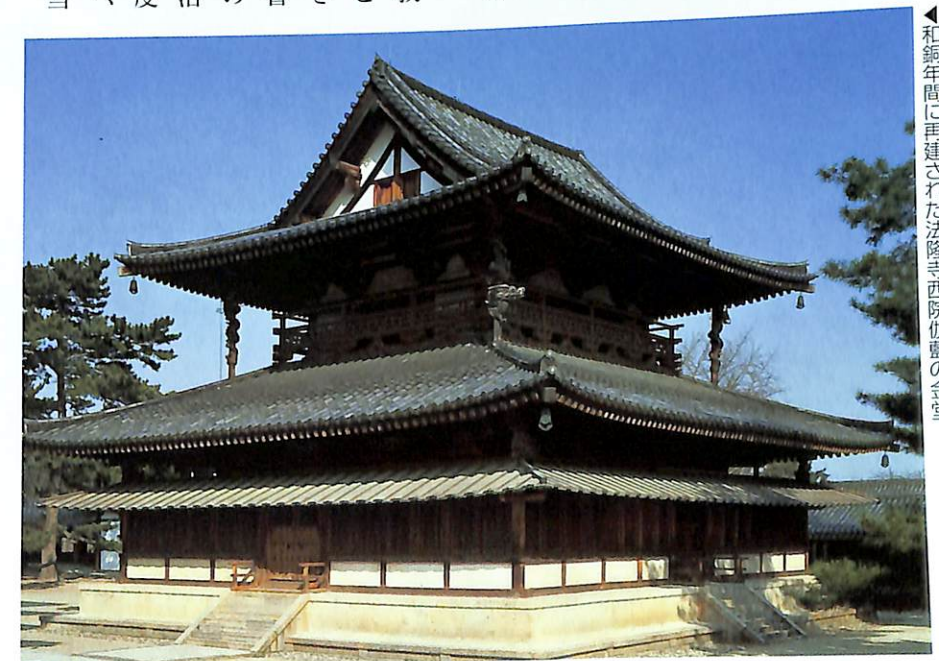
法隆寺は推古一五年（六〇七）に聖徳太子によって創建された。以来、天災からまぬがれ、火災にもあわずに、創建当時のまま、一三〇〇年の歴史を刻んでいるとするのが「非再建」論である。これに対して「再建」論は、『日本書紀』の記述のように、創建時の建物は天智九年（六七〇）の火災ですべてが焼失し、現在の建物は和銅年間（七〇八～七一五）に再建されたものであるとする。

喜田の法隆寺「再建」論は、郷里・徳島の先輩で歴史学者の小杉榲邨の「再建」論を、側面から支援するのが目的だった。ところが、関野らの論文を熟読したところ、それらの説はあくまで仮説にすぎず、さらに法隆寺に関する既出の論文を片っ端から読破した結果、喜田は「再建」論をほぼ確信するとともに、論争の主役として躍り出たのである。

喜田貞吉は、明治四年五月二四日（戸籍上は六年一月二四日）、徳島県那賀郡櫛淵村（現・小松島市）生まれ。徳島中学（現・城南高校）卒業後、第三高等中学校（現・京都大学）を経て、二六年、東京帝大文科大学国史学科入学。二九年に同校を卒業し、大学院に在籍。以降、中学校の講師などをつとめながら、三四年、文部省図書審査官に任官した。

明治三五年一二月、教科書出版会社と文部省との間の汚職事件が摘発された。いわゆる「教科書疑獄事件」である。この事件が契機となり、明治三六年、国定教科書制度が始まる。そして喜田は、歴史・地理の編纂を担当することになった。

その二年後に始まった法隆寺論争は長年にわたって続けられたが、実証主義に基づく喜田の主張は常に説得力に富み、明治四二年にはこの法隆寺「再建」論を主軸とした論文によって、文学博士号を授けられている。喜田はその後、国定教科書執筆の過程で、南北朝「並立」と記述したことが、南北朝正閏論争を引き起こして不可とされ、文部省を追われた。背景に「大逆事件」があったものの、皇国史観というイデオロギーが、実証主義の歴史を葬ったのである。

歴史学者・喜田貞吉について、『古代史の先駆者喜田貞吉』の著書がある作家の山田野理夫氏はこう語る。

「法隆寺、南北朝、そして喜田の関心は被差別部落問題や民族問題に向けられ、アイヌなどの少数民族にもおよびました。歴史家としての喜田の目は、常に国民生活に直結しています。その意味で喜田は、日本歴史の啓蒙者であるとともに、歴史学を学者のものから国民のものにした人と言えるのではないでしょうか」

最後の法隆寺論争は、昭和一四年五月一四日、喜田と関野の対論の形で行われた。当時、喜田は直腸癌に体をむしばまれ、周辺には死の影が漂っていた。同年七月三日、喜田は六八歳で死去。法隆寺の「再建」が若草伽藍の発掘により確認されたのは、この年一二月のことである。

◀和銅年間に再建された法隆寺西院伽藍の金堂。

▲明治41年10月4日に撮影された家族写真。後列右から妻・千代(26)、喜田貞吉(37)、前列左から長男・三五(7)、次男・新六(6)、三男・喜三九(3)。

▲タンジールに到着したウィルヘルム2世(写真中央の黄色い帽子)。アフリカ大陸の戦略的要衝で鉱物資源が豊かなモロッコには、すでにフランスの権益が認められていた。

決定的瞬間

ウィルヘルム二世の恫喝! 突然のタンジール上陸で英仏協商の形骸化ねらう

ドイツ皇帝・ウィルヘルム二世(四六)は、ポルトガルの首都・リスボンに赴き、同国王を表敬訪問したが、その後、帰国の途につくことなく、当時フランスの勢力下にあったモロッコの港町・タンジールに上陸した。一九〇五年三月三一日のことである。

ウィルヘルム二世は上陸後、スルタン(モロッコ国王)の主権と同国独立の保護者として訪れたと、その目的を高らかに表明した。そして、モロッコがすべての国の平和的通商にひとしく門戸を開くことを求め、あわせてモロッコにおけるドイツの権益を守ることを宣言した。

それとともに、イギリスがモロッコにおけるフランスの優越的な権益を承認した一九〇四年四月の英仏協商はドイツにとって認められないとし、同問題を一八八〇年のマドリード協約に基づいてあらためて討議するための列国会議の開催を要求したのである。

この要求は、実のところ難癖に近い。にもかかわらず、皇帝みずからがわざわざモロッコにまで赴き、恫喝に近い要求を行ったのには、それなりの理由と目算があった。

一九〇四年四月、日露開戦まもなくの頃、イギリス、フランス両国は英仏協商を締結する。その核心は、エジプトにおけるイギリスの、モロッコにおけるフランスの優越的な権益を相互承認し、全世界における両国の勢力関係を現状維持することを協定したことにある。同盟関係と言えるほど親密ではないが、長年にわたる両国の覇権対立にデタント(緊張緩和)が成ったのだ。

一方、ウィルヘルム二世は、ヨーロッパの大陸国家をドイツのもとに結集して、イギリスを孤立させることで覇権を確立しようという世界戦略を立てていた。

彼の目に、英仏協商が邪魔な存在として映ったことは言うまでもない。そこで、横槍を入れ、フランスを揺さぶることで協商を形骸化させようとしたのである。

日露戦争の苦戦と革命の勃発で、ロシアには同盟国・フランスを支える余裕はない。しかも英仏間の覇権をめぐる根本的対立は消えておらず、モロッコの権益の問題でイギリスがフランスを全面的に支援することはない。これがウィルヘルム二世の胸算用だった。

フランスは苦境に立たされた。同国政府は結局、列国会議を翌年一月、南スペインのジブラルタルに近い町・アルヘシラスで開催することを了承。英仏協商を推進した仏外相・デルカッセは、列国会議開催を拒絶することを主張したが、閣議の反対にあい辞任に追いこまれた。

ことはウィルヘルム二世の思惑どおりに進むかに見えた時、彼の前に立ちはだかったのはイギリスだった。

列国会議において、イギリスがフランス全面支持にまわり、ドイツの孤立は明らかになった。同会議は結局、タンジールを国際都市とするなど、形式上モロッコの主権尊重と各国の通商上の機会均等を宣言したものの、フランスとモロッコの国土の一部を植民地とするスペインが、治安および財政に関する監督権を持つことを承認し、閉幕したのである。

そして五年後、ウィルヘルム二世は、再びモロッコに介入する。同国で起こった内乱へのフランスの出兵を口実に、モロッコの港町・アガディールに砲艦を派遣し、第二次モロッコ事件を引き起こしたのだ。

皮肉なことに、ウィルヘルム二世の二度にわたる野望により、英仏関係はより親密さを増し、同盟関係にいたる下地を作ってしまった。彼は、列強との摩擦を増大させることが、やがては第一次世界大戦の敗北、革命勃発によるみずからの破滅をも引き寄せてしまうとは、夢想さえもしなかったのである。

▲ウィルヘルム2世の対外膨張政策は、ドイツの権威失墜と国際的孤立を招いただけに終わる。 Popperfoto/ユニフォト・プレス

◀「東京パック」創刊号2～3ページ目。戦争のたびに華族がふえていく世相を皮肉り、日本兵よりも待遇のよいロシア人捕虜を描くなど、内容は庶民の立場から吟味されている。

日本漫画資料館提供(2点とも)

美の出会い

マンガで時局を痛烈風刺！B4変型、全一二ページ、一二銭 北沢楽天「東京パック」創刊

明治三八年四月一五日、マンガ家の北沢楽天（二八）により、月刊マンガ雑誌「東京パック」が創刊された。B4判変型の大判で全一二ページ。発行元は東京パック社で、発売は有楽社。定価は一二銭だった。いずれのページもマンガと解説文で構成、庶民を代弁して時局や世相を痛烈に風刺した内容である。石版刷りオールカラーの印刷は、写真もおよばない迫力をそえて、誌面効果を盛り上げた。

創刊号の表紙には日本の力を軽く見たため鉄鎚がくだり臍を噛んで悔いているロシア皇帝・ニコライ二世の絵を、また中の見開きページはハルビン陥落の図を二ページにわたって載せるなど、日露戦争の話題がほとんどを占めていた。ほかには、「奇異なる風習」と題して、「女湯の三助をお三に改良すべし」のキャプションをつけたマンガが当局の警告を受け、裸体女性の首から下を墨塗りしたと、読者への詫び状を載せる一幕もあった。

創刊号の売れ行きが心配で、社員総出で上野公園など繁華街に繰り出して立ち売りをしたが、発行部数は回を追って伸び、定価一三銭に値上げした翌明治三九年からは月二回の刊行、四〇年からは旬刊になった。最盛時の部数は六万部におよんだという。この「東京パック」の成功について、川崎市市民ミュージアムの専門研究員でマンガ・風刺画研究家の清水勲氏は、次のように語る。

「それまで日本人が見たこともないような大判の雑誌に、大々的にマンガが描かれていた。この新鮮さが、ヒットした原因のひとつでしょう。それと、日清戦争の時もそうでしたが、戦争時にはマンガがヒットするのです」

北沢楽天（本名・保次）は明治九年七月二〇日、埼玉県の大宮に生まれる。大宮の旧家だった北沢家は、明治維新政府が大宮県を設置した際に、県庁舎として徴用されたほどの家である。楽天が生まれてまもなく、父・保定は東京・神田錦町に移転。幼少の頃から絵の才能を示した楽天を、麴町の洋画塾にかよわせた。

明治二八年、楽天はアメリカ人が経営する横浜の週刊新聞社、ボックス・オブ・キュリオス社に入社。ここでイギリス人のマンガ家・ナンケベルに出会い、風刺マンガの技法を習得し、さらに海外の雑誌などから欧米のマンガ家たちの活躍ぶりを知った。

ボックス社での楽天の仕事ぶりに目をつけた「時事新報」の福沢諭吉は、明治三二年に自社の時局マンガを描かせるため楽天を招聘。劇作家・飯沢匡は、この諭吉と楽天の出会いについて『楽天漫画集大成』の中で記している。

「福沢が時事新報に礼を尽くして楽天を迎えたのは、日本漫画史の上で逸することの出来ぬ事柄である。ポンチ絵（風刺画）描きと軽んじていた漫画家に社中、最高の給料を払ったのだ」

福沢は、かつて夢見ていた民主主義の世とはほど遠い現体制に対し、最も有効な攻撃武器は風刺マンガであると考え、楽天の筆でもって体制にショックを与えようとしたのだ。この時の楽天の月給は五〇円。楽天は諭吉の期待にこたえ、大いに描きまくった。この時代の楽天の時事マンガが、日本の近代マンガを開花させたと言われる。

「時事新報」でめぐまれた境遇にあった楽天が、新たに「東京パック」創刊に踏み切ったのは、大新聞の組織の中で制約されることを嫌ってのことである。さらに、宮武外骨（三八）が大阪で発行した「滑稽新聞」の人気に刺激されたこともあげられる。マンガ誌の刊行をもちかけられた有楽社の社長・中村弥二郎は、楽天を月給五〇円、一部につき一銭三厘の印税を払うという破格の待遇で迎えた。

創刊号は広告にいたるまで、ほとんど全ページを楽天一人で描いたが、あまりの多忙さに画学生を助手に募った。ここに参集してきたのが近藤浩一路（二一）、山本鼎（二二）、石井鶴三（一七）、坂本繁二郎（二三）らであった。後の日本画や版画、彫刻、洋画の世界で大きな功績を残す面々である。さらに明治四〇年には、寄稿者として鹿子木孟郎、川端龍子、小杉未醒、石井柏亭、竹久夢二、赤松麟作ら絢爛たる才能が並んだ。

しかし、「東京パック」の終刊は思わぬところからやってきた。明治四五年、中村弥二郎がほかの事業で失敗したのだ。「東京パック」が抵当に入っていることを知った楽天は、すぐに退社を決意する。その後、楽天は「楽天パック」「家庭パック」など、次々に創刊するが、長続きせずに二年半で廃刊。再び「時事新報」にもどった楽天は、朝日新聞の岡本一平、国民新聞の池部鈞、読売新聞の近藤浩一路らと新聞マンガを競い、その発展につくすことになる。

◀「東京パック」創刊号表紙。時は日露戦争の最中、ロシア皇帝を揶揄したマンガは、日本の読者にすんなり受け入れられた。後年、本文には英語、中国語も用いられ、国際誌として海外にまで知れわたる。

◀この年一月、楽天は鈴木伝兵衛の三女・いのを妻に迎えた。

大宮市立漫画会館蔵

交通博物館 東京・千代田区

ファン垂涎！ 展示の花はやはり実物機関車、鉄道模型、運転シミュレーター

桑原茂夫

▼山手線のシミュレーター。運転席から見える光景がワイドな実写で、傾斜やカーブがリアルに感じられることも人気の要因になっている。

▶ヘリコプターや複葉機も浮かぶ、博物館正面からの光景。手前左は大正時代に活躍した九八五六型機関車。右は最後に旅客列車を引いたC五七一三五号機関車。

▼明治5年に新橋―横浜間を走った、記念すべき「機関車1号」の実物。

▼パノラマ全景。手前に東北・山形新幹線が見え、赤い屋根を持つ「成田エクスプレス」の優雅な車体も見える。それぞれのスピードも相対的に再現されている。

交通博物館提供（4点とも）

この交通博物館があるあたりは、万世橋と呼ばれている。神田川をまたぐ橋の名称が周辺地域の名になったものだが、かつてはここに国鉄の万世橋駅があった。まだ東京駅がなかった明治時代には、ここが汐留（今の新橋駅近く）と並ぶ鉄道のターミナルであり、中心であった。昭和一一年、その万世橋駅に、すでに大正一〇年から開館していた「鉄道博物館」が移転してきて、駅が廃止になった後も、博物館だけ残ったのである。そして戦後、鉄道だけでなく、ほかのあらゆる交通機関を対象とした博物館に発展し、その名も「交通博物館」となった。

今や収蔵資料二十三万五千余点という、名実ともに日本を代表する博物館のひとつとなっている。その背景には、鉄道が近代日本の社会基盤として重要な位置を占めていたことと、そのために、時代の最先端技術がそこに集積したという事情がある。機関車や車両の製造技術はもとより、架橋やトンネル掘削などの土木技術、高速化にともなう通信と保安の技術など、最高度の技術が鉄道に集まった。

それに関する資料も、当然、膨大なものとなる。資料の状態も、実物や模型から、写真、図面などまで多種多様だが、展示の花はやはり実物と模型である。

実物には、たとえば日本の鉄道開通時に走った「機関車一号」や、北海道で初めて走った「弁慶号」などがあり、模型には、最初の国鉄電車やアプト式電気機関車、各種客車などが並べられているほか、実際に車両を走らせる鉄道模型もある。

圧巻は「パノラマ」と称されている、縮尺八〇分の一のHOゲージの鉄道模型で、広さ三〇〇平方メートルというスペースに作られた起伏のある地形を、いろいろな列車が走りまわる。

操作するのは博物館の職員で、朝の出庫から始まって、夕暮れの走行なども演出される。走るのは「成田エクスプレス」「寝台特急・北斗星」「スーパービュー踊り子号」などで、もちろんスタイルやデザインは実物そのまま。東海道山陽新幹線などは実際と同様一六両編成で走るから、その長さにあらためて驚かされることになる。この「パノラマ」が子どもたちから断トツの人気を得ているのは、テレビゲームなど画像による疑似体験装置に慣れた子どもたちにとって、このような実物模型がことのほか新鮮に見えるからだろう。

模型のほかに、運転シミュレーターも根強い人気を保っている。ここには山手線の上野―田端間のほか、新幹線や東海道線のシミュレーターがあるが、プロの運転士養成に用いられているのと同じ山手線のものが最もリアルで、人気が高い。

ところでここが「交通博物館」であるゆえんは、鉄道関係にとどまらず、船舶、航空機、自動車をも網羅しているところにあるが、やはりメインは鉄道であり、鉄道ファンにとって垂涎のまととなるような逸品ぞろいの博物館なのである。

●交通博物館
東京都千代田区神田須田町一―二五
☎〇三―三二五一―八四八一
JR秋葉原駅下車、徒歩四分。地下鉄淡路町、小川町駅下車、徒歩四分
開館時間＝九時三〇分～一七時
休館日＝月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始。ただし、春休み、夏休み期間などは特別開館があるので要問合わせ
入館料＝一般三一〇円

虎斑の野良猫と俳人・高浜虚子が産婆役
反響騒然、掲載誌「ホトトギス」は完売！
夏目漱石、処女作「吾輩は猫である」発表

▲「吾輩は猫である」を執筆した千駄木の自宅書斎で。明治39年3月撮影。 半藤末利子所蔵／平凡社提供

明治三八年一月に発売された雑誌「ホトトギス」に、夏目漱石の処女作「吾輩は猫である」が掲載された。これを機に、漱石は本格的な作家活動に入り、同時期に「帝国文学」に「倫敦塔」を、また「学鐙」に「カーライル博物館」を発表する。その中で圧倒的な人気を博したのは、何といっても「吾輩は猫である」であった。この一作をもって、文豪・漱石が誕生するるのである。

執筆依頼が殺到し「吾輩もの」が氾濫

俳誌「ホトトギス」明治三八年一月号の巻頭を飾った、東京帝大講師・夏目漱石（三七）の「吾輩は猫である」は、たちまち評判を集めた。

「猫」という語り手の目を通してストーリーが進行する斬新な構成、奔放かつメリハリのきいた文体が織りなす風刺と笑いに、漱石周辺、「ホトトギス」読者の間でまず人気が沸騰する。漱石自身も気をよくしたと見えて、当初、一回読み切りの予定を変更して続編を書く。初回の末尾を、「欲をいっても際限がないから生涯此教師の家で無名の猫で終る積りだ」

▶▼右は、明治38年10月に大倉書店から刊行された『吾輩は猫である』上編。下は、中村不折による挿絵。定価95銭。

▲「主人は痘痕(あばた)面である」に始まる第9章原稿。主人とは、当時の社会に辛辣な批評を加える知識人、珍野苦沙弥先生をさす。 高浜喜美所蔵／日本近代文学館提供

と結んだ漱石だったが、翌三九年八月号まで断続的に一一回にわたって書き継ぐ。

連載を知った知人や門下生、読者の間では、登場人物のモデルさがしが話題になった。さまざまな噂を呼んだが、主人公・珍野苦沙弥は漱石自身、理学士・寒月は門下生の寺田寅彦(二六)、美学者・迷亭も漱石ということに落ち着いている。

三八年四月号の第三回あたりから、世間の注目度も高まり、漱石の身辺は騒がしくなる。新聞・雑誌が押しかけ執筆依頼は殺到するし、「猫」のパロディとも言うべき「吾輩もの」が、いたるところに氾濫した。早くも「第一高等学校校友会雑誌」三八年四月号には、「吾輩も猫である」が載った。〝パパラッチ〟まで出現し、漱石は風呂屋まで追跡され「湯槽から上がってお尻を三べん叩いた」「カンカンに乗って目方を計った」ことが雑誌に投書された。「猫を作って以来細君と仲が悪くなった」などあらぬ噂も流れる。

一方、「ホトトギス」にも「猫」効果が現れていた。第一回と第二回の掲載号は完売。第一〇回を載せた三九年四月号は「坊っちゃん」も同時掲載とはいえ、発行部数五五〇〇部。これは一般誌の「中央公論」に匹敵する数字であった。

漱石自身、この「猫」には相当の愛着を感じていた。大学講師・夏目金之助は、自宅に戻り作家・夏目漱石に変身するといきいきする。創作中の筆は速く、書き損じなどなかった。「傍で見ているとペンをとって原稿用紙に向かえば直ちに小説ができるといったぐあいに張り切っておりました」(夏目鏡子述、松岡譲筆録『漱石の思い出』)。当時、胃弱と神経衰弱に悩まされていた漱石にとって、この小説は一種のカタルシスの役割をはたしていたのである。

高浜虚子が文章指導 不服そうな顔の漱石

「吾輩は猫である」誕生の裏には、一匹の野良猫と俳人・高浜虚子がいる。

明治三七年六、七月頃、本郷区(現・文京区)駒込千駄木の夏目家に、全身黒ずんだ灰色に虎斑の子猫が迷いこんできた。漱石の妻・鏡子夫人(当時・二六歳)は何度も追い払ったが、猫は平気で舞い戻って来る。ある日、漱石の目にとまり、何を思ってか、「おいてやったらいいじゃないか」と猫に同情する。このひとことに救われ、野良猫は日本で一番有名な猫になった。

漱石が小説を書くもうひとつのきっかけを作ったのが、虚子(当時・三〇歳)である。正岡子規が生前に主宰していた文章勉強会「山会」を引き継いだ虚子は、漱石に明治三七年一二月の例会に文章を寄せてみないかと誘った。当日、漱石宅を訪ねると原稿数十枚が完成していた。虚子がその場で朗読し始めると、これが面白い。実に変わっていた。かたわらで聞きながら、漱石自身が吹き出すことしばしばであった。

▶漱石の家には、教え子の学生たちがしばしば出入りした。写真右から小宮豊隆、森田草平、一人おいて野上豊一郎、松根東洋城。

これはいけると直感した虚子は、「欠点を言ってくれ」という漱石の言葉に応じて、あれこれ指摘した。その場で冗漫な部分を書き直させ、原稿用紙二枚分を削除させた。虚子もなかなか大胆である。「今は丸で忘れて仕舞つたが、兎に角尤もだと思つて書き直した」(「処女作追懐談」)と、漱石は語っているが、実際は不服そうな顔をしていたという。

一方、虚子は「氏は大分不平らしかったけれども、未だ文章に就いて確かな自信がなく寧ろ私を以って作文の上には一日の長あるものとして居ったので大概私の指摘したところは抹殺したり、書き改めたりした」(「漱石と私」)と自信たっぷりである。もっとも、その虚子も第二回以降は書き直しを命じることはなかった。こうして「忽ち漱石氏の名を文壇に嘖々たらしめた」作品が「ホトトギス」三八年一月号の巻頭を飾ったのである。

▲門下生の一人で、理学士・水島寒月のモデルとされる寺田寅彦。

連載執筆中の明治三八年一〇月、「猫」の一部が『吾輩は猫である』上編として、橋口五葉の装幀、中村不折の挿画、菊判(一五二×二一八ミリ)、定価九五銭で出版された。三九年一一月、四〇年五月には中編と下編が出た。後年、漱石は「たゞ書きたいから書き、作りたいから作つたまで」と述懐しているが、『猫』上編は、発売二〇日で重版になるほど人気を集めた。鏡子夫人の記憶では毎月一〇〇〇部ぐらいずつ検印を捺したという。

これほどヒットした理由を、明治の思想・文学に詳しいノンフィクション作家の長尾剛氏はこう語る。

「わかりやすいうえに、面白い。それも知的な喜びを与えてくれます。尾崎紅葉の『金色夜叉』にはもう飽きたが、勃興し始めた自然主義文学にもなじめない層から、圧倒的支持を受けたわけです。都会のホワイトカラーを中心に、知的で誠実な読者層が生まれてきたことがその背景にあります。父が買ってきた『猫』が家庭の中で、家族みんなに読まれたのです」

明治四一年九月一三日、「吾輩」は早稲田南町の新居で死亡する。

漱石は翌日「辱知猫儀久々病気の処、療養不相叶、昨夜何時の間にか裏の物置のヘッツイの上にて逝去致候。埋葬の儀は車屋をたのみ箱詰にて裏の庭先にて執行仕候」と手製黒枠の死亡通知を門下生に書き送った。鏡子夫人は月の一三日を猫の命日として、毎月欠かさず、鮭の切り身と鰹節飯を墓前に供えた。

▶鈴木三重吉宛の「猫」の死亡通知。明治四一年九月一四日付。

森下茂所蔵／日本近代文学館提供

▶早稲田南町の邸内に建てられた「猫」の供養塔。

▲漱石の墨画「あかざと黒猫図」。

夏目純一／平凡社提供

7~8月

フォト＋日録で再現する365日

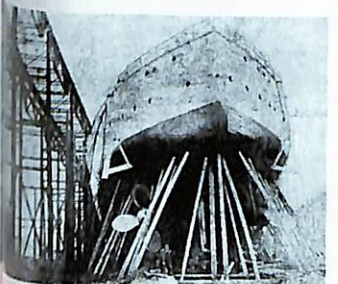
「風俗画報」

◀**桂太郎首相、タフト長官と密約(7月29日)** 米陸軍長官・タフトが親善を兼ねて来日。この日、米国のフィリピン統治と、日本の韓国併合の相互承認を桂首相と約束した。写真の後列中央がタフト。

▲**日本兵捕虜(7月)** 日露戦争の長期化・拡大につれてふえたが、人数・待遇などは不明だった。写真は、ロシアの小村で魚取りに興じる捕虜たち。9月の「読売新聞」は、全露推計1629人とした。

毎日新聞社

▶**日本軍、樺太占領(7月31日)** 講和条件を有利にしようと、7日に上陸。24日、首都を落とし、全島平定。写真は30日、教会で降伏文書にサインする露軍軍使。

▲**女義太夫・豊竹呂昇、7年ぶり東京公演(7月1日)** 大阪で人気の「弾き語りの呂昇」が、新富座に。30歳。全国的声名を得、名人・竹本摂津大掾と並称された。

▲**英国で戦艦「香取」進水式(7月4日)** ロンドン滞在中の海軍大将・有栖川宮が、参列。排水量約1万5950トン。後に皇太子裕仁の訪欧御召し艦となった。

▼**小川未明、文壇へ(7月18日)** 前年、師・坪内逍遙に雅号・未明をもらい創作活動へ。この日、早大卒業記念で逍遙宅に集合した。写真後列右から5人目が未明(23)、前列右から5人目が逍遙(46)。

明治38年7月

1(土)●第一銀行漢城支店、韓国の中央銀行業務開始。
2(日)●逓信省、韓国の通信事務引き継ぎを完了。
3(月)●国木田独歩編集の「婦人画報」が創刊。
4(火)●軍艦「香取」、英国バーロー造船所で進水式。
5(水)●奥羽南線、福島—湯沢間全通。
6(木)●第一四師団を姫路に戦時編制(以後、第一五師団を習志野、第一六師団を大阪に編制)。
7(金)●第一三師団、南樺太に上陸(8日、大泊占領、24日、北樺太に上陸、31日、露軍が降伏)。
8(土)●小村寿太郎全権委員ら、日露交渉のため出発。
9(日)●日本鑵詰(株)、名古屋で設立。
10(月)●ロンドンで横山大観・菱田春草展を開催。
11(火)●兵庫県の塩田労働者三六〇〇人、特別手当減額に反対してスト。
12(水)●陸軍、戦時服制改正、黒からカーキ色に変更。
13(木)●米国のデュボイス、黒人の発展をめざす新ナイアガラ運動を始める。
14(金)●露の講和全権にウィッテを任命、と新聞に。
15(土)●文部省、直轄学校に四月学年制採用を指導。
16(日)●女学生の自転車通学流行、女子大で一二~一三人、音楽学校でも七~八人、と新聞に。
17(月)●東京地裁、スパイで懲役一〇年の仏人を特赦。
18(火)●高知裁判所の判事、廃止された旧法律で密造酒犯有罪の判決を下す失態、と新聞に。
19(水)●講和問題同志連合会、各地で強硬要求の集会。
20(木)●三菱、初の浮ドック設置の神戸造船所を開設。●韓国の反日義兵、忠清道、江原道などで決起。
21(金)●長野県松本で秋蚕発見四〇年記念会を開催。
22(土)●鹿児島のサンゴ採集船や鰹漁船が暴風雨で遭難、漁民ら三百五十余人が行方不明。
23(日)●争議中の大阪アルカリの職工、技手を殴打し六人拘引(25日、職工一二〇人解雇)。
24(月)●独と露の皇帝、独露同盟条約(ビヨルケ密約)調印(後に両国政府の反対で流産)。
25(火)●京都・久世郡などの農民三千余人、宇治川電気・疏水拡張事業の改善求め府庁に押しかける。
26(水)●大阪自働車(株)設立。バス五台で市内を運行。
27(木)●米国の邦字日刊紙が二〇〇〇号、と新聞に。
28(金)●工業所有権保護協会、発会式。
29(土)●桂太郎首相、タフト米陸軍長官と会談、韓国・フィリピン問題で合意(桂・タフト協定)。
30(日)●ロシア捕虜を客に取る京都・花見小路の花蝶倶楽部、品位おちたり、と新聞が非難。
31(月)●宮崎滔天らの仲介で孫文と黄興が会見。

▲**日本初の鉄筋コンクリート建築誕生(8月)** 佐世保海軍工廠の第1烹炊所(写真)。土木技師だった真島健三郎が設計。独・仏・米では、建築物の基礎構造技術として定着しつつあった。

◀**日露戦争実写映画、東南アジアで大当たり(8月)** 吉沢商店からフィルム一式を買い、映写技師兼説明員の「巡業隊」(写真)が興行。バンコク、シンガポールなど各地で大好評だった。

▶**上野—新潟、直通列車走る(8月1日)** 前年、北越鉄道が全通し、直江津で信越本線と接続したため、夢が実現した。片道17時間。明治40年には、全線が官営鉄道となった。写真は、青海川駅付近。

▲▶**中国革命同盟会を結成(8月20日)** 革命派が大同団結。孫文(39、写真右)を総理に、三民主義を掲げた。写真上前列・黄興(31)、その後ろ、汪兆銘(21)、右から二人目・章炳麟(36)。

▲**東京・日比谷公園音楽堂オープン(8月1日)** 広場に、8角形のバンドステージが完成。この日の開堂式には、陸軍戸山学校軍楽隊が出演。以降、陸海軍軍楽隊が月2回定期演奏、市民の人気を集めた。

「太陽」

◀**有栖川宮(43)、愛車とともに帰国(8月26日)** 独皇太子の結婚式参列で渡欧した際、街を走る車に目をとめ、5人乗り仏製「ダラック号」(写真)を購入。日本で2番目の乗用車と言われた。

明治38年8月

1(火)●日比谷公園の音楽堂が開堂式。●新橋—下関、上野—新潟間で急行運転を開始。
2(水)●栃木県谷中村の鉱毒被害村民一〇〇人、土地買収反対の陳情に上京途中を警官が阻止。
3(木)●樺太の露軍捕虜三二七〇人、と新聞に。
4(金)●軍費献納の護国幼年会会員が急増、と新聞に。
5(土)●三重紡績、尾張紡績・名古屋紡績の合併を決定。
6(日)●実用新案法実施の七月一日から三一日まで出願数四四六件、うち登録は二三五件、と新聞に。
7(月)●インドでベンガル分割反対の大集会を開催。
8(火)●警視庁、市内を荒らす窃盗団一一人を検挙。
9(水)●桂首相が新橋の芸妓・お鯉を落籍、カナ子夫人は伊香保温泉で豪遊、と新聞に。
10(木)●ポーツマスで日露講和第一回会議を開催。
11(金)●英で外国人移民規制法と失業労働者法が成立。
12(土)●第二次日英同盟協約を調印。防衛同盟から攻守同盟に。日本の韓国保護権も承認。
13(日)●全露農民同盟、結成大会。土地要求が急進化。
14(月)●桂首相、政友会の原敬と会談。講和条約支持のかわりに、後継首相に西園寺公望を確約。
15(火)●東京・千住に数十万羽の白蝶が飛来。
16(水)●駆逐艦「神風」、横須賀海軍工廠で完成。
17(木)●鉄道作業局、「線路案内」作成し案内所で販売。
18(金)●日露講和会議、樺太北半分返還の妥協案提出。
19(土)●文部省、東京法学院の中央大学改称を認可。
20(日)●孫文ら、中国革命同盟会を東京で結成。
21(月)●日露開戦以来の捕獲船舶は五四隻、と新聞に。
22(火)●米大統領、日露交渉の打開をはかるため、日本に賠償金要求の放棄と露に早期妥結を勧告。
23(水)●大阪鉄工場桜島造船所の職工一二〇〇人、賃上げストを計画、指導者一七人を警察が拘引。
24(木)●軍用船「金城丸」、大分県姫島沖で英国汽船と衝突沈没、帰還兵一五五人が死亡。
25(金)●文部省、戦争継続・対露強硬論の東京帝大教授・戸水寛人を休職処分(戸水事件)。
26(土)●独皇太子結婚式参列の有栖川宮、欧州で購入の自動車と英国人運転手とともに帰国。
27(日)●函館の「同盟丸」、樺太で密猟中を軍が発見し獣皮七〇〇枚を差し押さえ、と新聞に。
28(月)●御前会議、賠償金・樺太割譲の要求を放棄しても講和を成立させる方針を決める。
29(火)●日露講和会議、決裂寸前で合意が成立。
30(水)●中央気象台、樺太に三測候所の新設を決定。
31(木)●米国鉄道資本家のハリマン、来日。

▲「東京大地震」と惨事を予測(9月)東京帝大助手・今村明恒(35、写真)が、50年周期説から発表。翌年、教授の大森房吉が根拠なしと反論したが、18年後、関東大震災が発生する。

◀松旭斎天一(52)、帰朝第1回公演(9月2日)欧米巡業後、東京・歌舞伎座で得意の西洋奇術・水芸を見せた。写真中央・天一、後列右は弟子で、後に時代の寵児となった天勝(19)。

▶大亀を捕獲(9月16日)千葉県木更津沖で、出漁中の漁師が発見。なんと全長3メートル、体重800キロもあるオサガメ。高速で泳げるように、甲羅が軽いのが特徴だった。

「戦時画報」

◀関釜連絡船、就航(9月11日)「壱岐丸」(写真)が下関港を出発、釜山港に向かった。これで山陽鉄道と京釜鉄道が連絡、東京—漢城(現・ソウル)間が60時間の距離となった。

▶海軍が凱旋記念大観艦式(10月23日)連合艦隊の帰還を祝し、来日中の英米艦隊を含む200の艦艇が、東京湾に集結。天皇親閲後の夜、群衆数万人を前に、各艦がイルミネーションを点じた。

▶神戸製鋼所が創業(9月1日)商事会社・鈴木商店が、神戸の小林製鋼所を買収して設立。写真は、建設中の小林製鋼所。技術的失敗と資金難から、開業1ヵ月で経営を鈴木商店に委譲したもの。

神戸製鋼所提供

明治38年9月

1(金)●日露休戦の議定書調印(14日、大山巌満州軍総司令官、全軍に停戦命令)。
2(土)●清国、官吏登用試験の科挙制度を廃止。
3(日)●大阪市公会堂で市民大会を開催、日露戦争継続・講和条約破棄を決議。
4(月)●講和問題同志連合会代表の河野広中、宮内省に閣僚と全権委員弾劾上奏文を提出。
5(火)●日露ポーツマス条約調印(10月16日、公布)。
●東京・日比谷で講和反対国民大会開催、交番や新聞社など襲い暴動化(日比谷焼き打ち事件)。
6(水)●東京に戒厳令適用し軍隊出動。
7(木)●東京の騒動おさまる。死傷者一〇二二人。
●「都新聞」など反講和条約の新聞に発刊停止令(以後、「東京朝日新聞」など発刊停止が続出)。
8(金)●神戸非講和市民大会、伊藤博文の銅像、交番など破壊(12日、横浜、21日、名古屋でも)。
9(土)●神戸で日本初の婦人ゴルフ競技会を開催。
10(日)●安立綱之警視総監、焼き打ち事件で引責辞任(16日、芳川顕正内相も引責辞任)。
11(月)●佐世保で「三笠」が火災沈没、死傷者三三一人。
●山陽汽船、下関—釜山間連絡船の運航開始。
12(火)●島村抱月、欧州留学から帰国。
13(水)●日韓航行自由約定書調印(日本が貿易独占)。
14(木)●奥羽線、福島—青森間が全通。
15(金)●三越呉服店、輸入化粧品の販売開始(10月15日、欧米輸入の帽子、小児用服飾品を発売)。
16(土)●日露両軍の休戦実施(29日、帰還開始)。
17(日)●タフト米陸軍長官一行、帰国の途に。
18(月)●連合艦隊、露と海上休戦地域を協定。
19(火)●露、米国の勧告で第二ハーグ平和会議を提案。
20(水)●陸軍、青山練兵場で独製凧式気球を公開。
21(木)●戸水寛人ら六博士、反講和の上奏文を提出。
22(金)●東京市会、市民を弾圧する警視庁廃止の意見書を満場一致で可決(26日、清浦内相却下)。
23(土)●白馬会創立一〇周年記念展を東京で開催。
24(日)●モスクワで第一回労働組合全国大会を開催。
25(月)●芝浦製作所、職工の東京府立学校通学を許可。
26(火)●司法試験第一回(論文)及第者の進路は、判事七二四人、弁護士四四〇人、と新聞に。
27(水)●維新の功労者、酒泉直ほか一四人に叙位。
28(木)●独・仏、モロッコ問題に関する協定に調印。
29(金)●内務省、青年会の向上発達督励を地方長官に通達(青年団育成の最初の施策)。
30(土)●北海道拓銀、第一回拓殖債券八〇万円発行。

毎日新聞社

▲ハリマン、満鉄進出ならず(10月23日)東清鉄道の利権をねらう米国鉄道王が、12日、桂首相と会談。共同経営を約したが、外相・小村寿太郎の猛反対で解約される。日本は翌年、独自に満鉄を設立する。

▼撤兵と鉄道引き渡しを協議(10月30日)四平街停車場で日露両軍代表が会談。講和条約に基づく占領地域確定、撤兵期限、鉄道引き渡しの議定書を交わした。

▼YWCA創立(10月17日)東京の大隈重信邸で発会式。女子英学塾(現・津田塾大)塾長・津田梅子(40、写真)が会長に就任。キリスト教に基づいた人格形成と、社会奉仕を掲げた。

▲連合艦隊司令長官・東郷平八郎(57)、晴れの帰還(10月22日)新橋駅から、上村彦之丞(56)第2艦隊司令長官らと馬車をつらねて参内。沿道は、将軍を迎える群衆で立錐の余地もなかった。

◀山岳会が発足(10月14日)日本近代登山の父・ウェストン(写真中央)の支援で、小島烏水(31)らが「山岳の研究」を掲げて組織。会員は393人。

▶尾崎行雄、再婚(10月14日)同姓の尾崎男爵の娘・英子と、芝の教会で挙式。華族会館での茶話会の後、夕刻には鎌倉へ「蜜月旅行」に発った。尾崎(46)は2年前から東京市長だった。

毎日新聞社

明治38年10月

1(日)●大日本武徳会、初の武術専門学校、武術教員練習所を設立。
2(月)●上奏した六博士の処分に文部省苦慮と新聞に。
3(火)●クロアチア、自決要求のフィウメ決議を採択。
4(水)●枢密院が講和条約を可決、佐世保・長崎・対馬・函館の各要塞地帯の戒厳令を解除。
5(木)●英東洋艦隊、親善のため神戸へ入港。
6(金)●孫文、亡命中の日本からシンガポールへ出発。
●大阪毎日新聞社、西国三三ヵ所巡礼競争実施。
7(土)●誘拐による密航婦人四八人、香港行きノルウエー汽船で発見、保護される。
8(日)●第一回自動車コースレース、米国で開催。
9(月)●平民社が解散。堺利彦、幸徳秋水らと木下尚江、安部磯雄らキリスト教系社会主義者が分裂。
10(火)●米軍艦「シンシナティ号」、横浜に入港。
11(水)●日本基督教会第一九回大会、海外ミッションとの協力打ち切り・教会の自給独立を決議。
12(木)●桂首相、ハリマンと南満州鉄道の予備協定を交換(15日小村外相反対、23日中止を通告)。
13(金)●上田敏訳、詩集『海潮音』刊行。
14(土)●小島烏水ら、山岳会を結成。会員三九三人。
15(日)●陸軍の御用商人、暴利一〇倍、と新聞に。
16(月)●インド政庁、反対の中、ベンガル分割法を施行。
17(火)●日本基督教女子青年会(YWCA)発足。
18(水)●文部省、体育奨励の戦後教育関係心得を訓令。
19(木)●露のカザン鉄道従業員スト始まる(21日全鉄道がストに合流、24日全国的ゼネストに発展)。
●大阪瓦斯、開業。市内に初めてガスを供給。
20(金)●連合艦隊、横須賀に凱旋。
21(土)●北海道釧路線、釧路—帯広間が全通。
22(日)●逓信省、戦没記念絵はがき発行。五組一五枚。
23(月)●海軍凱旋記念大観艦式を横浜沖で挙行、艦艇二〇〇隻参加、観衆数万人が駆けつける。
24(火)●「大阪朝日新聞」、三度目の発行停止、一五日間(九月から三ヵ月間で三六日の発禁)。
25(水)●河野広中ら新党・国民倶楽部を結成。
26(木)●ペテルブルグに初の労働者代表ソビエトが成立、第一回総会開催(議長・トロツキー)。
27(金)●米大統領、パナマ運河工事着手宣言、と新聞に。
28(土)●岩手・宮城・福島三県、冷夏と台風で実収は平年の二割、軍の糧食を求める、と新聞に。
29(日)●モルガン、お雪をともないアメリカへ帰国。
30(月)●露皇帝、立憲君主制採用を宣言(一〇月宣言)。
31(火)●北海道厚岸町で大火、焼失一二〇〇戸。

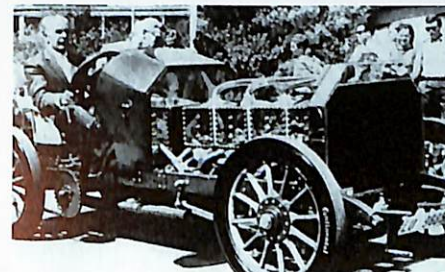
▲日本、韓国の外交権を剥奪(11月17日)特命全権・伊藤博文(64)を派遣、英・米・露の承認のもと、第2次日韓協約をごり押しし、保護国化を達成した。写真は、厳戒下の漢城を行く伊藤。

▲ニューヨークに写真ギャラリー誕生(11月25日)後年、米国近代写真の父と言われたスティーグリッツ(写真)が、5番街に開設。後に「291」と称した。

bpk/デジタルハウス

▶コッホ(61)、ノーベル賞受賞(12月10日)結核菌の発見、ツベルクリン開発など結核に関する研究で、医学・生理学賞を受賞した。写真は、ベルリンの伝染病研究所時代のコッホ。

Ullstein/ユニフォト・プレス

▲ポーランドにストの嵐(11月5日)独・露・オーストリアの分割統治と弾圧、日露戦争では出兵を強制され、さらに戦後不況が重なったため、労働者や市民が各地で蜂起した。写真はワルシャワの集会。

▲時速157キロの世界新(11月15日)スイス人のデュフォー兄弟が、みずから開発したレーシングカー(写真)で、仏・アルルのコースを疾走した。

横浜銀行提供

▶第七十四国立銀行本店、新装(11月4日)第二国立銀行とともに、現・横浜銀行の前身。民間預金を中心に発展、次第に茂木商店の機関銀行色を強めた。

明治38年 11月

1(水) ●農商務省山林局、林業試験所を東京に設置。
2(木) ●文部省、清国留学生取締規則を公布。 ●伊藤博文、日韓協約締結のため韓国派遣の特別大使に任命される(5日、出発)。
3(金) ●露皇帝、フィンランドの政治的自由を宣言。
4(土) ●桂首相、小村外相を特派全権大使として清国へ派遣のため外相を兼任(6日、小村出発)。
5(日) ●韓国の京義鉄道(漢城―新義州)が開通式。
6(月) ●渋沢栄一ら癩問題懇談会、発足。
7(火) ●円山応挙一一〇年祭、京都の建仁寺で執行。
8(水) ●露のオデッサでユダヤ人虐殺事件。一〇〇〇人を超えるユダヤ人が死亡。
9(木) ●大山巌総司令官に、「長期に亘れる戦況を聴かむと欲す、すみやかに凱旋せよ」の勅語。
10(金) ●日米著作権保護条約を調印。翻訳の自由認可。
11(土) ●河野広中・小川平吉ら、日比谷焼き打ち事件に関し暴徒召集容疑で収監(翌年、無罪判決)。
12(日) ●逓信省が戦争で中断の電話工事再開と新聞に。
13(月) ●露軍捕虜受取船の第一船が横浜に入港。
14(火) ●幸徳秋水、横浜から米国へ出発(翌年6月23日、無政府主義者の影響を受け帰国)。
15(水) ●仏の自動車レースでデュフォー兄弟、時速一五七キロの世界新記録を樹立。
16(木) ●東京市会議員ら警視庁廃止期成同盟会を結成。
17(金) ●第二次日韓協約調印(23日、公布)。
18(土) ●漢城で新条約に反対する市民が大韓門前に殺到、商店が一斉休業など反日運動が拡大。
19(日) ●英国の各都市で婦選要求集会(~21日)。
20(月) ●臨時国債整理局官制公布。局長・阪谷芳郎。
21(火) ●山県有朋監修『陸軍省沿革史』刊行。
22(水) ●神奈川県、凶作の東北へ乾燥甘藷の供給決定。
23(木) ●初代韓国統監に伊藤博文が就任。
24(金) ●管野すが、和歌山県の「牟婁新報」で婦人問題を論じ四民平等の社会主義を主唱。
25(土) ●不利な条件の外債整理のため、四分利付英貨公債五〇〇〇万ポンド発行の勅令公布。 ●中央東線、岡谷―富士見間開通し生繭を輸送。
26(日) ●二宮尊徳没後五〇年記念会が東京音楽学校で開催され、中央報徳会を設立。
27(月) ●政府、燐寸専売法案の提出を内定、と新聞に。
28(火) ●アイルランドのダブリンで独立をめざしたシン・フェーン党が成立。
29(水) ●戒厳令・新聞取締りの緊急勅令を撤廃。
30(木) ●大阪と兵庫でペスト防止臨時防疫職員を任命。

▲モスクワで労働者が武装蜂起(12月23日)ソビエトのゼネスト呼びかけに応じ、市内にバリケードを構築(写真)。3700人以上が軍隊の発砲で殺された。

証言・あの日この日
正宗白鳥(26)

9月12日(火)〈私は個人として、また読売新聞記者として横浜の埠頭に氏を迎へた。氏は長い間の海上生活に疲労してゐて、多数の出迎へ人に話をするのが懶いやうだつた。新聞に出すための帰朝談は聞けさうでなかつた/「あなたのお留守中、私は何もしませんでした」と私が云ふと、「何故です？」と、氏は訊返した。「何をしていいか分からないから」と、私は心の中で答へてゐたゞけであつた〉(正宗白鳥『自然主義盛衰史』)

この頃、「読売新聞」の新進気鋭の文芸記者として活躍していた正宗白鳥は、この日、英国留学から帰国する島村抱月を、横浜港に出迎えた。自分でも批評や小説を書いていた白鳥は、この聡明な新帰朝者なら〈我ら何をなすべきか〉を知っているだろうと期待していたが、帰国後の抱月から満足な答えは得られなかった。(山崎行太郎)

HULTON GETTY/オリオン・プレス

▶ロンドンで交通災害に救急車2台導入(12月19日)従来は伝染病患者の緊急隔離に限っていたが、自動車の増加を背景に検討。道路脇に備えた電話をかけると、写真のような救急車がやって来た。

「写真画報」

▲満州軍総司令官・大山巌(63)、凱旋(12月7日)11月、将兵の最後に奉天を出発、晴れて首都に帰還した。写真は日本橋・三越前。雨にもかかわらず沿道は大混雑。馬車行列は、さかんな歓呼の中を進んだ。

▲中国革命派の志士・陳天華、自殺(12月8日)清国留学生取締規則に抗議の同盟休校をした留学生を、「放縦卑劣」と報じた「東京朝日新聞」に憤慨。30歳。

毎日新聞社

▼日露戦争兵士、帰還(12月3日)11月4日に本格化、続々故国に到着。動員兵力108万人、負傷17万人、6万人が不帰の人となった。写真は門司・大里検疫所。将兵を待っていたのは、まず消毒だった。

明治38年 12月

1(金) ●「東京朝日新聞」、言論弾圧このとおりと三九紙誌の発行停止日数を掲載し政府を批判。
2(土) ●文部省、戸水事件で山川東京帝大総長を免職。
3(日) ●京都府、第一回園芸品評会を開催。
4(月) ●清国留学生、清国留学生取締規則に抗議スト(8日、「民報」編集長・陳天華が抗議の自殺)。
5(火) ●東京・京都帝大の教授多数、文部省の総長免職に抗議して辞表提出(14日久保田譲文相辞任)。
6(水) ●加藤時次郎ら、普通選挙連合会を結成。
7(木) ●大山満州軍総司令官・児玉同総参謀長、東京に帰還(9日、黒木第一軍司令官も)。
8(金) ●河上肇、伊藤証信主宰の無我愛運動へ参加。
9(土) ●仏、政教分離法を公布。教会の特権を廃止。
10(日) ●独のロベルト・コッホ、結核に関する研究でノーベル医学・生理学賞を受賞。
11(月) ●テヘラン市当局の砂糖商人への厳罰に僧や商人が反発デモ。イラン立憲革命の発端に。
12(火) ●海軍、青森県の大湊を要港にするむね公布。
13(水) ●韓国皇帝、米大統領に米国人ジャーナリストを通じて日韓協約を承認しないよう要請。
14(木) ●講談研究会が発会、娘義太夫の人気に対抗。
15(金) ●ペテルブルグ・ソビエト、財政宣言を発表するが、全メンバー二三〇人が逮捕される。
16(土) ●政府、横浜正金銀行に満州(中国東北部)の軍票整理・幣制統一のための手形発行を命ずる。
17(日) ●大同絵画会、東京・上野で創立総会を開く。
18(月) ●上海で暴動、各国軍艦の水兵上陸して警戒。
19(火) ●山県有朋、椿山荘に凱旋将軍を招き園遊会。
20(水) ●宮中で大本営の解散式を挙行。
21(木) ●第一次桂太郎内閣総辞職。
22(金) ●清国と露の利権引き継ぐ日清条約に調印。遼東半島租借、南満州鉄道譲渡など。
23(土) ●モスクワの武装労働者市街戦、軍隊が鎮圧。
24(日) ●京浜電鉄、品川―横浜間全通。
25(月) ●日比谷焼き打ち事件予審で一〇四人が有罪。
26(火) ●久原房之助、日立鉱山事務所を設立。
27(水) ●文部省、青年団の設置奨励を各府県に通達。
28(木) ●警視庁、電気鉄道による事故防止を訓令。
29(金) ●海軍煉炭製造所を岩国に設置。
30(土) ●神奈川県知事、露国俘虜輸送船への酒・武器の行商は取り締まる、と新聞に。 ●大阪毎日新聞社、日露開戦以来の号外発行四九八〇回、経費三四万四〇〇〇円と発表。
31(日) ●次期西園寺内閣の組閣が難航、と新聞に。

我楽多市

流行語
今は飛躍のための準備段階

「過渡期」。日露戦争の勝利によって、日本人は世界の一等国という自信を持ち、飛躍への夢を抱いた。「今はその準備段階」という意味で、「過渡期」という言葉がさかんに使われた。

「カーキ色」。陸軍は明治三三年の「北清事変」で、夏の略服にカーキ色を試用、三八年から正式に採用した。折からの戦勝ムードの中でカーキ色がキーワードとなり、茶色も黄色も「カーキ色」と呼んだ。なお「カーキ」とは、ヒンディー語で土ぼこりのこと。

「国旗屋」。金に汚い男。この年は戦勝祝賀会や行列で、国旗屋が大儲け。しかも、品不足を理由に何度か値上げしたため、市民の反発を買うことも多かった。その表れとして、金に汚い男を「国旗屋」と呼ぶようになった。まったく同じ理由から、「提灯屋」という言葉も使われた。

「青熊」。日露開戦初期、ロシアが日本人のことを「イエロー・モンキー」と呼んで見下していたことは、世界中で知られていた。それへの反発から、ロシア人のことを日本に負けて顔面蒼白の熊という意味で、こう呼ぶことが流行した。

▲日露戦争の最中、第1軍司令部の宴席に侍る仮装兵士。式祭の折に優男（やさおとこ）が選ばれ、女装して愛嬌を振りまいた。
「軍国画報」

海外
「輝く光の喜びを二人で」発見！ 世界最古の恋文

〔ローマ発〕 世界で最古と思われる艶書が、最近、セパルワニ（イラク）で発見された。この艶書は泥土に記され、年代は紀元前二二〇〇年にさかのぼるものと鑑定されている。その内容は次のとおりである。

小さき牝羊の君に贈る
　日の神の愛僕より
日の神の暖かい恩恵の中に、御身の限りなき生命をお祈りしています。
いかがお暮らしでしょうか。バビロンに住居を定めてから久しくお会いせず、恋しさにこがれています。いつバビロンへおのぼりのつもりか、お待ちしています。
早く来て、私の差し出す香油と香料を受けてください。花々であなたの首を飾ってください。
二人して輝く光の喜びに笑い、限りない静けさを楽しむ。そういう日が永遠に続きますように。

（「国民新聞」三月二五日）

CM100年 新聞CM 「佳人の花おしろい」（朝日堂）

▲ひとつの広告を、表と裏の両面から見せるという奇抜なアイディアで、抜群のＰＲ効果をあげたＣＭ。

◎小村全権大使の渡米

▲平福百穂画「小村全権大使の渡米」。国民の過大な期待を一身に背負って、ポーツマス講和会議に出発する小村寿太郎外相。「団団珍聞」7月13日号掲載。
日本漫画資料館提供

健康
現在の血圧測定器はロシアの軍医が考案

水銀圧力計のついたゴム袋を上腕に巻いて空気を送り、上腕を締めつけてからゆっくり空気を抜く。その時、腕に聴診器をあて、音の聞こえ出した時が最高血圧、消えた時が最低というのが、今も変わらぬ血圧の測定法である。

この測定法を考案したのはロシアの軍医・コロトコフで、以来、たちまち世界に広まった。日本でも同様で、このため、この測定器は日本では「三八銃」と呼ばれることになった。明治三八年、陸軍が「三八式小銃」を制定したが、同じ年にできた、同じくらいすごいものというわけである。

（「週刊朝日」昭和三三年一二月七日号）

三面記事
世界を瞠目させた連合艦隊

〔ニューヨーク発〕 日本が露国艦隊を殲滅し、同国の海軍力を破砕したことは全世界史に例を見ない偉業である。日本が文明世界に対して開国したのは、今からわずか五〇年前のことで、文明の形を取り入れるようになってから二五年も経っていない。しかも、いくらか見るべきもののある海軍力を有してから一〇年と経たないのに、一躍、世界海軍国の主力に列することになったのである。

日本は陸上においては、既に露国を打ち負かしていたが、今回の海戦は兵力整備とその配備の点で、世界中に一大変更を余儀なくさせることになった。特に日本艦隊がさしたる損害をこうむることなく露国艦隊を撃破したのは、海戦史上、最も著しい勝利のひとつである。

今、欧州で強大な海軍力を有する英国をのぞいて、このような勝利をおさめうる国がどこにあるだろう？ 日本がこの機に乗じて、ますます海軍力を発達させれば、遠からず英国をも羨望させることになるであろう。

（「ニューヨーク・サン」五月三〇日）

▶五月に戦勝記念タバコ「保万礼（ほまれ）」が発売され、大正二年一二月には軍隊専用となった。

社会
巷の噂が大変な人気「道楽世界」の投稿欄

「道楽世界」という雑誌があり、その「有喜世新聞」という読者投稿欄が大変な人気だった。そのいくつかを紹介すると——。

「神田橋本町二丁目の学校の向かいにある金網店では妻妾同居させているよ＝岡焼生」

「日本橋城辺河岸通りの永村さんの娘さん、あいかわらず本郷（東大）の医学士さんのところへおかよいですか＝無名実見」

「本所亀沢町の寿徳庵のご主人、清元の延葉留師匠のところへばかり泊まらないで、たまには自宅へ帰んなさいよ＝世話焼」

（「道楽世界」一〇月二五日、一一月五日号）

「婦人画報」

▲加納子爵の令嬢が、4月20日房総の旅へ。身支度がファッショナブル。

データ
軽いのは六九キロ！ 力士の身長、体重

〔金沢発〕 大砲・梅ケ谷一行が金沢で興行中、雨で休場が続いたところから、当地の新聞社が見物人への余興として力士の身体の数値を詳しく計測した。力士の身長、体重などは力士が公表されることを嫌うところから、かなり曖昧と言われているが、これは医者が立ち会った厳正な記録である（メートル法に換算）。

力士	年齢	身長	体重
大砲	（三五）	一九六センチ	二二八キロ
梅ケ谷	（二六）	一七〇センチ	一五四キロ
荒岩	（三三）	一七〇センチ	九七キロ
国見山	（二八）	一七八センチ	一一六キロ
太刀山	（二七）	一八七センチ	九四キロ
鬼龍山	（三二）	一六七センチ	七〇キロ
大崎	（二四）	一六七センチ	六九キロ

（「風俗画報」一月五日号）

はやり歌

戦友

作詞 真下飛泉
作曲 三善和気

ここはお国を何百里
離れて遠き満州の
赤い夕日にてらされて
友は野末の石の下

思えばかなし昨日まで
真先かけて突進し
敵を散々懲らしたる
勇士はここに眠れるか

ああ戦いの最中に
隣に居った此の友の
俄かにハタと倒れしを
我は思わず駈け寄って

軍律きびしき中なれど
是が見捨てて置かりょうか
「しっかりせよ」とだき起こし
仮繃帯も弾丸の中

▶作詞者は、明星派の詩人。日露戦争中に、多くの唱歌の歌詞を書いている。この歌は出征から始まる長い物語になっており、「戦友」はその第三編にあたる。

美しき天然

作詞 武島羽衣
作曲 田中穂積

空にさえずる鳥の声
峯より落つる滝の音
大波小波轟轟と
響き絶えせぬ海の音
聞けや人々面白き
此の天然の音楽を
調べ自在に弾き給う
神の御手の尊しや

春は桜のあや衣
秋は紅葉の唐錦
夏は涼しき月の絹
冬は真白き雪の布
見よや人々美しき
この天然の織物を
手際見事に織りたもう
神のたくみの尊しや

▲「美しき天然」の作曲者・田中穂積は、佐世保海兵団海軍軍楽隊長。この年死去してまもなく楽譜が発売され、全国に普及。写真は、佐世保市の歌碑。

▶八月二〇日、大阪湾で一〇マイル遠泳が行われ、東大法科の学生・杉村陽太郎が一位に。杉村は後にIOC委員となる。

この年の初もの
白木屋が旅順陥落でデパート初の福引

●**校章** 東京・上野女学校が制定。
●**熱式パーマ** ドイツ生まれのチャールズ・ネッスラーが考案、ロンドンで発表。
●**文士劇** 五月、岡鬼太郎、岡村柿紅、栗島狭衣などが歌舞伎座で上演。
●**無線ファクシミリ** 米国・ペンシルベニア州のコーネリアス・アーレットが特許取得。
●**刑の執行猶予制度** 四月一日から実施。

世界の動き

将校四六人を射殺し、赤旗を掲げてオデッサ入港
水兵に乗っ取られたロシア黒海艦隊の旗艦
戦艦「ポチョムキン」の叛乱

▲7月8日、孤立した「ポチョムキン号」は、ルーマニアのコンスタンツァに入港。水兵は同国官憲に抑留された。「イリュストラシオン」(3点とも)

一九〇五年六月二七日、ロシアの黒海艦隊の戦艦「ポチョムキン号」の水兵が、食事への不満をきっかけに叛乱を起こした。一二チセン砲と六チセン砲を装備した重装甲艦で、エカテリーナ二世の寵愛を受けた政治家・ポチョムキン公にちなんで命名された精鋭艦上の蜂起は、「ツァーリ（皇帝）の軍隊が革命に味方した」と、ロシアのニコライ二世だけでなく、全世界の支配階級を震撼させた。

水兵叛乱のきっかけは腐った牛肉入りスープ

「スープを飲むものは、この場で解散。飲まないものは、叛乱分子として甲板に残れ！」――参謀将校のポリット・ギリアロフスキー中佐はそう叫ぶと、甲板に集合した六七〇人の水兵をにらみつけた。

黒海北部を航行するロシア黒海艦隊の戦艦「ポチョムキン号」で、腐った牛肉入りのスープをめぐる騒動が起きたのは、一九〇五年六月二七日のことだった。

悪臭を放つ牛肉に気づいた水兵らが、「スープは飲まない」と騒ぎだし、あわてたギリアロフスキー中佐が叛乱分子に制裁を加えようと、全兵士を集めたのだ。「飲む気になったものは前へ出ろ」。射撃班を呼び、ギリアロフスキー中佐が再び水兵に叫ぶ。ちょうどその時である。一級水兵のアファナーシー・マチュシェンコが、「弾薬と銃を取れ！ 艦を奪取しよう」と水兵に呼びかけたのだ。

「同志を撃つな」と射撃班を牽制した上で、呼応した水兵の一部は、銃などが保管された武器庫に突入。エヴゲーニン・ゴリコフ艦長を含めた将校四六人を次々と射殺した。水兵側の死傷者は、活動家のグレゴリー・ワクレンチュク一人だった。

これが、「『ポチョムキン号』の叛乱」の幕開けである。事件の第一報に触れた皇帝・ニコライ二世（三七）は、「乗組員が将校を殺し、艦を奪い、オデッサに脅威を与えているという驚くべき知らせが届いた。信じられない」（六月二八日）と日記に記した。

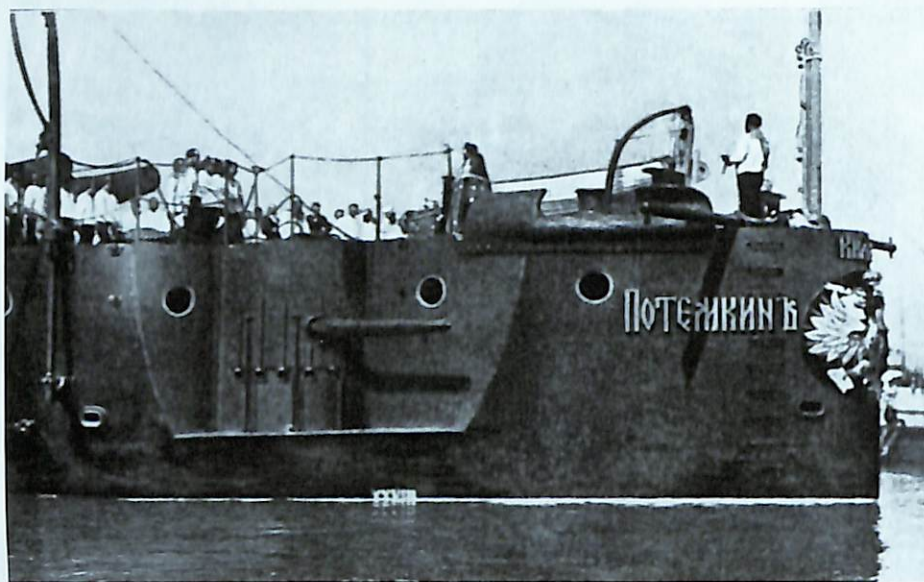
一九〇五年は、低賃金や住宅難を強いる独裁政治に対し、ロシア各地で民衆叛乱が相次いでいた。一月二二日にペテルブルグで、デモ中の労働者ら一〇〇〇人以上が射殺される「血の日曜日事件」が発生。この一件が起爆剤となり、労働者や農民によるストライキやデモがモスクワ、ロジ、オデッサなど全土へ波及する。

不穏な雰囲気は、旗色の悪い日露戦争で士気が低下している軍も例外ではなかった。機関士や技師が必要な艦隊には、教養ある労働者が送りこまれることが多く、そうした中には、黒海艦隊の各艇でひそかに組織された「ツェントラルカ」（ロシア社会民主労働党黒海艦隊中央水兵委員会）のような革命グループのメンバーに加わるものもいた。こうした活動家が、貴族出身の将校の理不尽さを憎む一般の水兵を組織するのは簡単なことだった（K・フェリドマン著『ポチョムキンの水兵たち』によると、水兵の手当を着服する将校もおり、一九〇四年に黒海艦隊で上官と衝突して処分を受けた水兵は一一四五人にのぼった）。

六月二七日午後八時、叛乱後の「ポチョムキン号」（乗員七五二人）は赤旗を掲げ、ゼネストが最高潮を迎えていたオデッサに入港。翌二八日に起きたのが、映画「戦艦ポチョムキン」で有名な「リッシェリュー階段の虐殺」だった。

反革命派が優位を占めルーマニア政府に降伏

「リッシェリュー階段の虐殺」は、オデッサの防波堤に安置されたワクレンチュク二等水兵の遺体を囲む集会に参加しようとした市民を、コサック兵が一斉射撃した事件（死傷者は約六〇〇〇人と言われる）。「いかなる手段を講じても叛乱を鎮圧せよ」というニコライ二世の決意が、強硬弾圧の背景にあった。

「ポチョムキン号」にも、軍艦一二隻が差し向けられたが、その総排水量は五万

▲「ポチョムキン号」の艦尾に立ち、ツァーリへの忠誠を説く教区つき司祭。

▲叛乱のドラマが起こる前、「ポチョムキン号」の艦上で将校と水兵が記念撮影。写真からは、緊迫した雰囲気は感じられない。

外から見たNIPPON

ロシア軍捕虜の妻・ソフィアが松山で触れた戦時下の庶民

――佐伯　修

「ついに長い間恐れていた不幸な知らせが届いた」。日露戦争下、夫のウラジーミル・フォン・タイル陸軍大佐を戦地に送り出していたソフィアのもとに、夫が日本軍の捕虜になったという公用電報が届いた。夫は負傷して、四国の松山にいるという。ソフィアは、交戦中の敵国である日本に乗りこんで、夫の看病にあたることを思いたち、この無謀とも言える計画を実行に移した。

実は、ソフィアにとって、日本は初めて訪れる国ではなかった。当時から約二〇年前、彼女は前夫とともに約二年間、日本で暮らしたことがある。それゆえ、日本は彼女にとって、どこか懐かしさを感じると同時に、酒乱だった前夫の暴力や、彼の事故死による不幸な結婚生活の結末の記憶と、切り離しがたく結びついている国でもあった。

それでも彼女は日本へ旅だった。一九〇四年六月一六日、女中頭のアンナとペテルブルグを発った彼女は、ヨーロッパ、大西洋、アメリカ大陸、そして太平洋を横断し、七月一九日、横浜に上陸、同三一日、ついに松山で夫と再会する。彼女の松山行きの世話は、神戸の仏領事館が引き受けた。

こうして、ともかくウラジーミルと再会できたソフィアは、日本側の許しを得て松山市内に住まい、ボランティアの赤十字看護婦として、戦争終結まで、夫やほかの捕虜たちの看護にあたった。一九〇七年に出版された彼女の手記『ハーグ条約のもとに』（邦題『日露戦争下の日本』小木曽龍・美代子訳）の、この年、一九〇五年一月二二日の項には、こんなエピソードが綴られている――ある夜、病院から帰宅しようと、人力車に乗ったソフィアは、冬の夜の雨に打たれながら、陽気にふるまう年配の車夫に、つい「あなたには苦労がないのね」と言ってしまう。すると、彼は自分の一人息子が旅順（りょじゅん）の「二〇三高地」で戦死し、病弱な妻と三人の孫を、この俥（くるま）一台で養っていると語り、続けて、息子の遺骨と灰の入った「小さな箱」は届いたが、まだ弔（とむら）いを出せずにいることを告げる。「私は本当にたいへん悲しんでおります。奥様（オカサマ）」。

自分の軽口に心とがめたソフィアは、老車夫の息子の葬式を出すことを思いたち、老人の誇りを傷つけぬよう、実現させた。「かの老人は硬い絹の袴（はかま）をつけ、位牌（いはい）の喪主である八歳の孫を連れて物静かに行進した。その男の子も、立派に堂々と、大股で歩いていった。友人のグループもこの後ろからゆっくり続き、町を通り抜け、畑の道を横切って、道後（どうご）方面へと姿を消した」

▲松山のロシア軍捕虜が作ったミニ・オーケストラ。

『日露戦争下の日本』／新人物往来社提供

四三四九トン、大砲一五〇門、水雷発射機四八台、乗員三四八六人。黒海艦隊の現勢力の、ほぼすべてが動員された。

オデッサ沖に停泊している「ポチョムキン号」の前に、鎮圧に来た艦隊が姿を現したのは叛乱四日目の六月三〇日。

「先頭に見えるのは、旗艦の『ロティスラフ号』と『聖三位一体（さんみいったい）号』です！」――「ポチョムキン号」の水兵が叫んだその時、「ただちに降伏せよ。さもなくば、ただちに砲撃する」という黒海艦隊総司令官補佐・クリーゲル中将からの電文が届いた。「協議のため、将官みずから本艦に急行せよ。身の安全は保障する」と返答し、決裂が避けられなくなった「ポチョムキン号」が大砲を艦隊に向ける。そして急接近してきた別の軍艦「ゲオルギー征服王号」と戦闘を開始する直前、意外なことが起きる。

「万歳ポチョムキン」「がんばれ同志」。「ゲオルギー征服王号」と左舷（さげん）側の軍艦「シノプ号」の甲板に、職務を放棄した水兵が詰めかけ、歓声が沸（わ）きあがったのだ。さらに、ほかの艦の乗員も発砲命令を拒否。この後、「ゲオルギー征服王号」が、「ポチョムキン号」に合流する。

ところが、七月一日には、早くも同号が叛乱から脱落。これにより「ポチョムキン号」内では反革命派が優位を占め、八日朝、ルーマニアのコンスタンツァで降伏。蜂起（ほうき）を終結してしまう。

「『ポチョムキン号』の活動家には有能な指導者がいなかったうえ、明確な方針がなく、水兵はオデッサ市民の闘争に参加することもなかった。つまり時期尚早だったのです。ただ、ツァーリの兵士が、最精鋭と言われた戦艦を乗っ取ったことはさまざまな反響を呼びました。このロシアの第一革命の高揚期に起きた最初の水兵叛乱が、一九一七年に起きた『一〇月革命』の〝序曲〟になったことは疑いありません」

と、同号の叛乱について語るのは、ロシア史研究家の和田春樹氏である。

ルーマニアの国王・カロル一世は、ロシアからの水兵引き渡し要求を拒否し、コンスタンツァに上陸した乗員に国籍を与える約束をして、住居や仕事も用意した。水兵の多くはルーマニアに定住するか、カナダ、アメリカなどへ移住。ロシアに帰国したのは、反革命派やロシア政府の説得を受け入れた計五四人。うち五人が死刑になり、ほかは二〇年の禁固刑やシベリアへの流刑などに処せられたという。

◀コンスタンツァのホテルで、朝食をとる水兵たち。大半はルーマニアに定住し、ロシアには帰らなかった。

「グラピック」

毎日新聞社

▲7月24日　川辺御楯（かわべみたて）(66)
幕末・明治期の画家。維新後太政官に出仕、伊勢神宮権禰宜（ごんねぎ）などもつとめ、代表作は「新田義顕（よしあき）血戦図」（宮内庁蔵）。

▲6月2日　津田出（いずる）(73)
政治家。明治初年、和歌山藩の藩政改革で四民平等・徴兵制を導入し、注目された。陸軍少将、元老院（げんろういん）議官。

▲3月24日　ジュール・ヴェルヌ(77)
仏の小説家。科学冒険小説で知られ、『80日間世界一周』『15少年漂流記』などは現在でも多くの読者を持つ。

▲1月3日　J・スクリバ(56)
独の外科医。明治14年来日、東京大学医科大学講師に。聖路加病院の外科主任もつとめ、日本の外科学育成に尽力。

▲10月6日　F・リヒトホーフェン(72)
独の地理学者で、ベルリン大学教授。中国などで地質学調査を行い、〝シルクロード〟の命名者として知られる。

▲6月7日　岸田吟香（ぎんこう）(72)
ジャーナリスト。「海外新聞」などを創刊。慶応3年日本初の和英辞典『和英語林集成』刊行。画家・岸田劉生（りゅうせい）は息子。

毎日新聞社

▲4月13日　鳥尾小弥太（こやた）(57)
陸軍軍人。戊辰（ぼしん）戦争で鳥尾隊を編成し活躍。明治7年大阪鎮台（ちんだい）司令長官、9年参謀局長。貴族院議員もつとめ、子爵。

▲1月31日　副島種臣（そえじまたねおみ）(76)
政治家。旧佐賀藩士。明治4年外務卿となり、「マリア・ルーズ号事件」を解決。枢密（すうみつ）院副議長、後に内相。伯爵。

平凡社提供

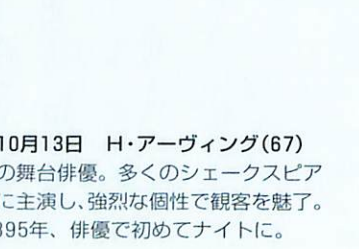
▲10月12日　初代吉田玉造(76)
幕末から明治期の文楽人形遣いの名人。12歳で初舞台、立役に優れ、「五天竺（てんじく）」の孫悟空は70日間大入りを記録。

朝日新聞社

▲7月4日　木村騰（のぼる）(50)
「大阪朝日新聞」の創設者の一人。老舗（しにせ）の醤油屋の息子で、父とともに創設に参加。後に道楽が高じて失踪。

▲4月13日　田口卯吉（うきち）(49)
政治家、経済学者。明治12年「東京経済雑誌」創刊、政財界に影響を与えた。27年衆議院議員。著書に『日本開化小史』。

関西大学提供

▲2月23日　井上操（みさお）(57)
法学者。元東大教授。明治19年関西法律学校（関西大学の前身）創設。20年の大阪事件裁判では裁判長をつとめた。

◀10月13日　H・アーヴィング(67)
英の舞台俳優。多くのシェークスピア劇に主演し、強烈な個性で観客を魅了。1895年、俳優で初めてナイトに。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第86号 11月2日(月)発売 毎週火曜日発売 講談社 定価560円 本体533円

1906[明治39年]

●**特集**
破格の資本金二億円でスタート! 国策会社「満鉄」が育てた"頭脳集団"/ロシア軍にも知れわたっていた厚遇 日露戦争捕虜の「松山収容所」抑留記/空前の株式ブームに"買い"一本! 「成金」第一号・鈴久の栄華と没落/ユダヤ人なるがゆえの冤罪で一二年 「ドレフュス事件」、無罪確定!

●**ニュース・ファイル**
フォト+日録で再現する365日…日本社会党結成(2月24日)/鉄道国有法公布(3月31日)/陸軍、三八式歩兵銃・騎兵銃を制定(5月5日)/日米海底電信線、開通(8月1日)/新渡戸稲造、一高校長に(9月28日)/英の美容室でパーマネント誕生(10月8日)/藤井実、棒高跳び世界新(11月10日)/米国で世界初のラジオ放送(12月24日)

●**人物クローズアップ**
島崎藤村、「破戒」を自費出版!

●**決定的瞬間**
サンフランシスコ大地震で戒厳令

●**美の出会い**
元老・井上馨邸で雪舟「山水長巻」展示

●**女たちの肖像**…遠藤波津子と「美顔術」ブーム/**勝者・敗者**…早慶戦中止を招いた応援合戦の過熱/**証言・あの日この日**…森峰子、三宅雪嶺/「**現場」を歩く**…金木町、「米騒動」後の備え/**20世紀博物館**…新聞博物館(熊本)/**外から見たNIPPON**…清国留学生・景梅九と宮崎滔天
●**ベストセラー**…伊藤左千夫『野菊の墓』/**スターと名場面**…島村抱月、「文芸協会」設立/**モノ語り'06**…「ゴールデンバット」

■既刊好評発売中(既刊85冊! 1910・1920・1930・1940・1950・1960・1970・1980年代がそろいました)

一九二〇年代

第62号1921[大正10年] 第63号1922[大正11年] 第28号1923[大正12年] 第64号1924[大正13年] 第65号1925[大正14年] 第66号1926[昭和元年] 第67号1927[昭和2年] 第68号1928[昭和3年] 第69号1929[昭和4年] 第70号1930[昭和5年]

一九三〇年代

第43号1931[昭和6年] 第44号1932[昭和7年] 第45号1933[昭和8年] 第46号1934[昭和9年] 第47号1935[昭和10年] 第48号1936[昭和11年] 第49号1937[昭和12年] 第50号1938[昭和13年] 第51号1939[昭和14年] 第52号1940[昭和15年]

一九四〇年代

第19号1941[昭和16年] 第20号1942[昭和17年] 第21号1943[昭和18年] 第22号1944[昭和19年] 第3号1945[昭和20年] 第23号1946[昭和21年] 第24号1947[昭和22年] 第25号1948[昭和23年] 第26号1949[昭和24年] 第27号1950[昭和25年]

一九五〇年代

第36号1951[昭和26年] 第37号1952[昭和27年] 第38号1953[昭和28年] 第39号1954[昭和29年] 第40号1955[昭和30年] 第41号1956[昭和31年] 第42号1957[昭和32年] 第6号1958[昭和33年] 創刊号1959[昭和34年] 第11号1960[昭和35年]

一九一〇年代 一九〇〇年代 最新刊

第80号1920[大正9年] 第81号1901[明治34年] 第82号1902[明治35年] 第83号1903[明治36年] 第84号1904[明治37年]

■今後の刊行予定
▶第87号1907[明治40年]11月10日発売
オーレル・スタイン、敦煌を探検●「華族令」改正●明治期最大「足尾暴動」!●「ハーグ密使事件」の暗転!
▶第88号1908[明治41年]11月17日発売
清朝最後の独裁者・西太后死す!●第1回ブラジル移民●「味の素」製造開始!●「ツングースカ大爆発」
▶第89号1909[明治42年]11月24日発売
伊藤博文暗殺!●生糸"世界一"と「女工哀史」●渋沢栄一「引退宣言」の衝撃●「北極点征服」大論争
▶第90号1910[明治43年]12月1日発売
「韓国併合条約」調印!●「大逆事件」のでっちあげ!●"千里眼"のカラクリ●「ハレー彗星大接近」パニック
▶第91号1991[平成3年]12月8日発売
雲仙普賢岳、恐怖の大噴火!●「湾岸戦争」勃発●続発! 金融犯罪と"闇の紳士"●「ソ連邦」消滅!
▶第92号1992[平成4年]12月15日発売
尾崎豊、26歳の突然死!●三内丸山遺跡発見●野坂参三、除名●ボスニア内戦「民族浄化」の狂気

ミニ事典

1905年のキーワード

政戦両略論
満州軍総参謀長・児玉源太郎の進言に基づき、参謀総長・山県有朋が日露戦争の終結について、三月二三日、桂首相・曾禰蔵相・小村外相に示した意見書。ロシアはまだ戦力に相当の余裕があるが、日本は「有らん限りの兵力を用ゐ尽し」ているとして、講和しか道がないことを説いた。一月には旅順を攻略、三月には奉天(瀋陽)を占領。国民の目には連戦連勝に見えていたが、その裏で講和に向け必死の政略・戦略が練られていた。

刑の執行猶予
刑の言い渡しをしたうえで、情状により一定期間その執行を猶予し、その間を無事にすごせば、刑の効力が失われる制度。西欧諸国では、一九世紀の末頃から行われ始めた。日本でも法制度の整備・近代化にともない、この年四月一日から、一年以下の禁固刑に処せられたものに、二年以上五年以下の執行猶予と執行免除の可能性が付された。二年後には、対象を刑期二年以下に延長、刑の効力も失われるように改められた。

社会主義伝道行商
社会主義思想の普及のため、平民社社員が行った書籍の行商販売を兼ねた反戦運動。前年から開始、四月五日には、荒畑寒村らが「平民文庫」などを赤塗りの箱車に積んで、東北に出発した。山口孤剣と小田頼造が前年一〇月から東海・山陽道を一一四日間かけて行った行商では、社会主義者六五人を獲得し、書籍一〇九七冊を売り上げている。

▲1月に伝道行商を終えた山口(左)と小田。戦時下の行商は容易ではなかった。

野口男三郎事件
東京・麹町で起きた猟奇殺人事件。薬局主に儲け話をもちかけて殺害した野口男三郎が、五月二八日、麹町署に引致されたのが幕開け。ハンセン病死とされた野口の義兄(漢詩人・野口寧斎)も、墓地から掘り出して検死したところ扼殺だった。また三年前、麹町の路地で両眼をえぐられ、臀部の肉を切り取られた一一歳の少年の死体が発見されたが、その犯人も野口と推定された。明治四一年、野口は死刑になったが、薬局主殺し以外の犯行は否認した。

ベンガル州分割令
インドのベンガル州を、東ベンガル・アッサム州とベンガル本州に分割する法律。過酷な植民地政策を行う総督・カーゾンが、反英運動をヒンズー教徒とイスラム教徒に分裂させるために推進、七月二〇日に公布。民族派はこれに対し激しい反対闘争を展開、スワデーシー(国産品愛用)・英貨ボイコット運動などが続発、一九一一年、分割令は撤回された。

桂・タフト協定
桂太郎首相がウィリアム・タフト米陸軍長官と七月二九日、東京でひそかに会談、交わした協定。アメリカのフィリピン統治と日本の韓国支配の相互承認、日露戦争後の極東の平和は、日・英・米の協力が不可欠との認識で一致したもの。翌月七日にルーズベルト大統領もこの協定を追認。大正一三年になって初めて全容が明らかになった。

元禄ブーム
日露戦争の戦勝ムードを反映して、東京・日本橋の三越呉服店が七月、大きな輪の中に花や月を極彩色で描いたものなどを、「元禄模様」として着物に取り入れたのをきっかけに、多分野に広がった流行。三越が元禄風裾模様・友禅模様の懸賞募集を行ったのも、ブームに拍車をかけた。日本海海戦を描いた袱紗、元禄髷、元禄煎餅、元禄料理、歌舞伎座では「元禄踊り」も上演された。

三越提供
▶「元禄風裾模様」のポスターが、ブームのきっかけを作った。

戸水事件
日露講和条約締結に反対し、積極的に政治活動を行った東京帝大教授・戸水寛人への休職処分に対して起こった、政府と大学との紛争。政府は「文官分限令」の「官庁事務ノ都合ニ依リ必要ナルトキ」と判断し、八月二五日、戸水に処分を下したが、全学教授と京都帝大法科大教授陣が結束して抗議、戸水の復職と久保田譲文相の辞職を要求。一二月、文相が辞職、翌年に戸水が復帰し、大学自治を守る戦いに勝利した。

ソビエト
一九〇五〜〇七年の第一次ロシア革命期に、労働者の代表が組織した評議会。一〇月二六日、ペテルブルグで初めて開かれた。出席者は三〇〜四〇人だったが、フィンランドに潜伏していたトロツキーも出席、首都の労働者にゼネストと代議員の選出を呼びかけた。以降、モスクワなど各地に誕生し、労働運動を組織・指導した。ツァーリの弾圧で消滅したが、この経験が一九一七年以降、ソビエトを中心に社会主義革命をリードすることになった。

ローマ字広め会
使用する文字が少なく表記が容易であること、分かち書きにより文法的機能が理解しやすいことなどを利点として、日本にローマ字を積極的に普及させようという会。一〇月に藤岡勝二、前島密、田中館愛橘らが中心になって設立。田中館はすでに明治一八年、主流になっていた英語式ローマ字のヘボン式(タ行がta chi tsu te to)に対して、日本式ローマ字(ta ti tu te to)を提唱していた。

第二次日韓協約
日露戦争中から韓国併合にいたる間に、三次にわたって締結された協約のうち、韓国の日本への保護国化を決定づけた協約。「乙巳条約」とも。一一月一七日、漢城(現・ソウル)で調印。日本全権は伊藤博文だった。七月の桂・タフト協定で米国の後ろ盾を得た日本は、軍隊に宮殿を包囲させ、韓国の外交権を掌握、以後、韓国統監府がいっさいの外交事務を行うことなどを強引に承認させた。

▲第2次日韓協約を締結した、日本と韓国の代表者。前列中央が日本全権の伊藤博文。

週刊YEAR BOOK/日録20世紀 1905

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター/山口至剛
表紙デザイン/山口至剛デザイン室(茂村巨利)+渡邉裕二
本文レイアウト/デザインオフィス八起き
編集協力/(有)エービーシープレス (株)カマル社 (株)コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ (有)マックス (有)マライカ
飯田守 小原伸夫 鍵和田良輔 菊地美優貴 小松邦宏 張替政展 藤森雅弘 森邦久 結城順一 吉田忠正
●写真協力
石井美雄 江頭徹 影山智洋 喜田和彦 木村陽子 小森谷信治 高浜喜美 但馬一憲 夏目純一 半藤末利子 森下茂
朝日新聞社 「イリュストラシオン」 Ullstein オリオン・プレス くれせんと CORBIS・BETTMANN 新人物往来社 デジタルハウス ノーボスチ通信社 HULTON GETTY PPS Topham 平凡社 Popperfoto 毎日新聞社 マツダ映画社 文殊社 有隣堂 ユニフォト・プレス 梅屋 遠藤波津子グループ 大林組 神戸製鋼所 ジュネス企画 三越 横浜銀行 大宮市立漫画会館 大宅壮一文庫 関西大学 交通博物館 三康図書館 島津創業記念資料館 大英博物館 東京芸術大学大学美術館 東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫 東京都立中央図書館 日仏会館図書室 日本玩具資料館 日本近代文学館 日本のあかり博物館 日本はきもの博物館 日本漫画資料館 野間教育研究所 bpk 法隆寺 三笠保存会 吉澤野球史料保存館

雑誌 23712-11/10
Ⓛ-2001/1/1
T1123712110566

印刷　凸版印刷株式会社　製本　大村製本株式会社